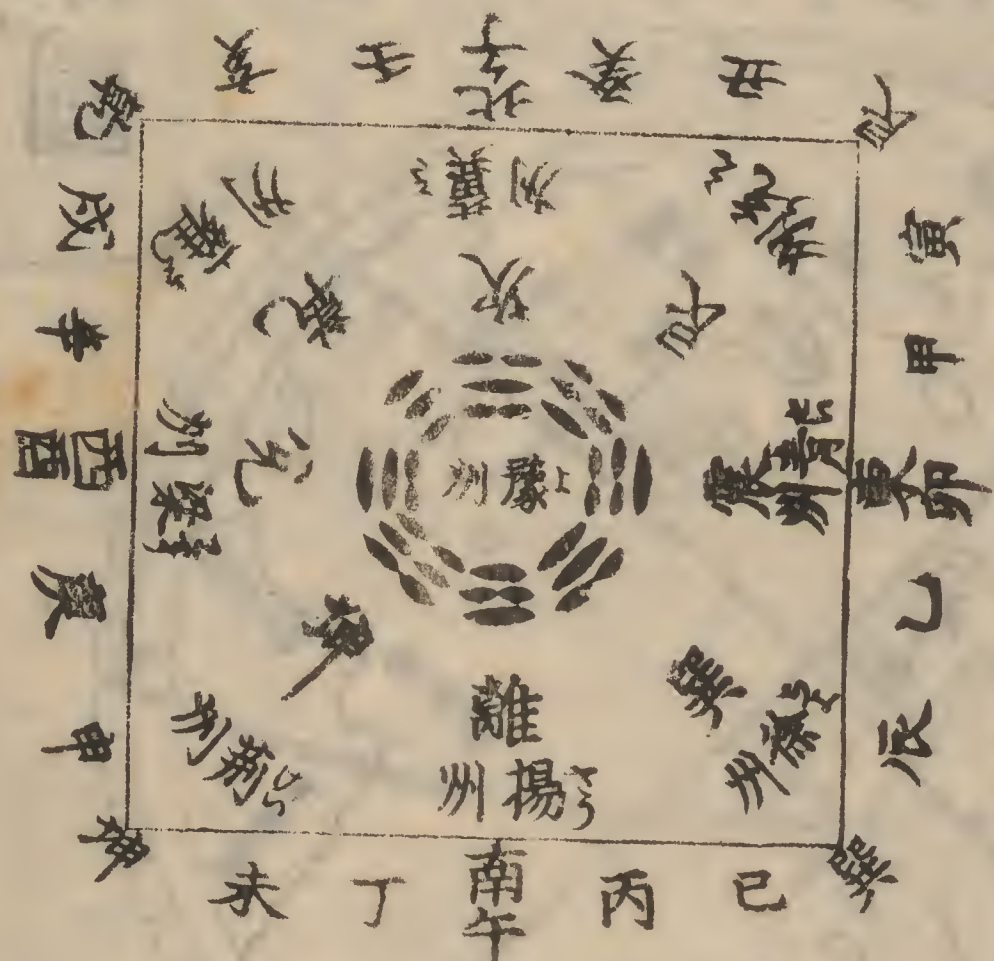


唐土訓蒙圖彙  
二

伏義俯察地理之圖



地理

つらゆのすま

此部より萬國中  
 華一ありを  
 名衛とあつひの  
 乃あはれ

唐土訓蒙圖彙卷之二

和名并  
和訓附

此圖伏羲の仰天  
 文とていつの  
 包義氏俯して一定の  
 法を地上觀察し  
 深く北は高く南は  
 低く南は高く北は  
 察て易と作し

地球圖

地球圖之說  
地球之形  
圓球也  
其面平  
如鏡也  
其地無  
分也  
其天無  
際也  
其氣無  
息也  
其水無  
涸也  
其火無  
滅也  
其土無  
崩也  
其石無  
落也  
其金無  
沉也  
其木無  
折也  
其草無  
枯也  
其蟲無  
死也  
其鳥無  
飛也  
其魚無  
游也  
其人無  
生也  
其鬼無  
靈也  
其神無  
靈也  
其魔無  
靈也  
其妖無  
靈也  
其怪無  
靈也  
其精無  
靈也  
其靈無  
靈也  
其魂無  
靈也  
其魄無  
靈也  
其胎無  
靈也  
其氣無  
靈也  
其血無  
靈也  
其肉無  
靈也  
其骨無  
靈也  
其髓無  
靈也  
其腦無  
靈也  
其心無  
靈也  
其肝無  
靈也  
其脾無  
靈也  
其肺無  
靈也  
其腎無  
靈也  
其膽無  
靈也  
其胃無  
靈也  
其腸無  
靈也  
其膀胱無  
靈也  
其三焦無  
靈也  
其六腑無  
靈也  
其五臟無  
靈也  
其百脈無  
靈也  
其十二經無  
靈也  
其奇經八脈無  
靈也  
其經絡無  
靈也  
其氣血無  
靈也  
其精神無  
靈也  
其魂魄無  
靈也  
其胎元無  
靈也  
其氣血無  
靈也  
其精神無  
靈也  
其魂魄無  
靈也  
其胎元無  
靈也



山



川

輿

全



此輿地全圖ハ予壯年の時友人の家藏とてうづりて  
 幸とたふり合幸とあて寫とてあふとて合繪とて一圓  
 球圖とて今あて元本ノ形状とてうづりて毫厘もさ  
 かく一凸一凹の限一嶋一川の形もあつたといふ  
 只うびらくハ景内條がして國名山川の形もあつた  
 のとて人さびらくはさうとて

摩訶訶國清卷二

男

亞泥俺峽

兩北海可通

加

地

墨尾

南極界

蠟

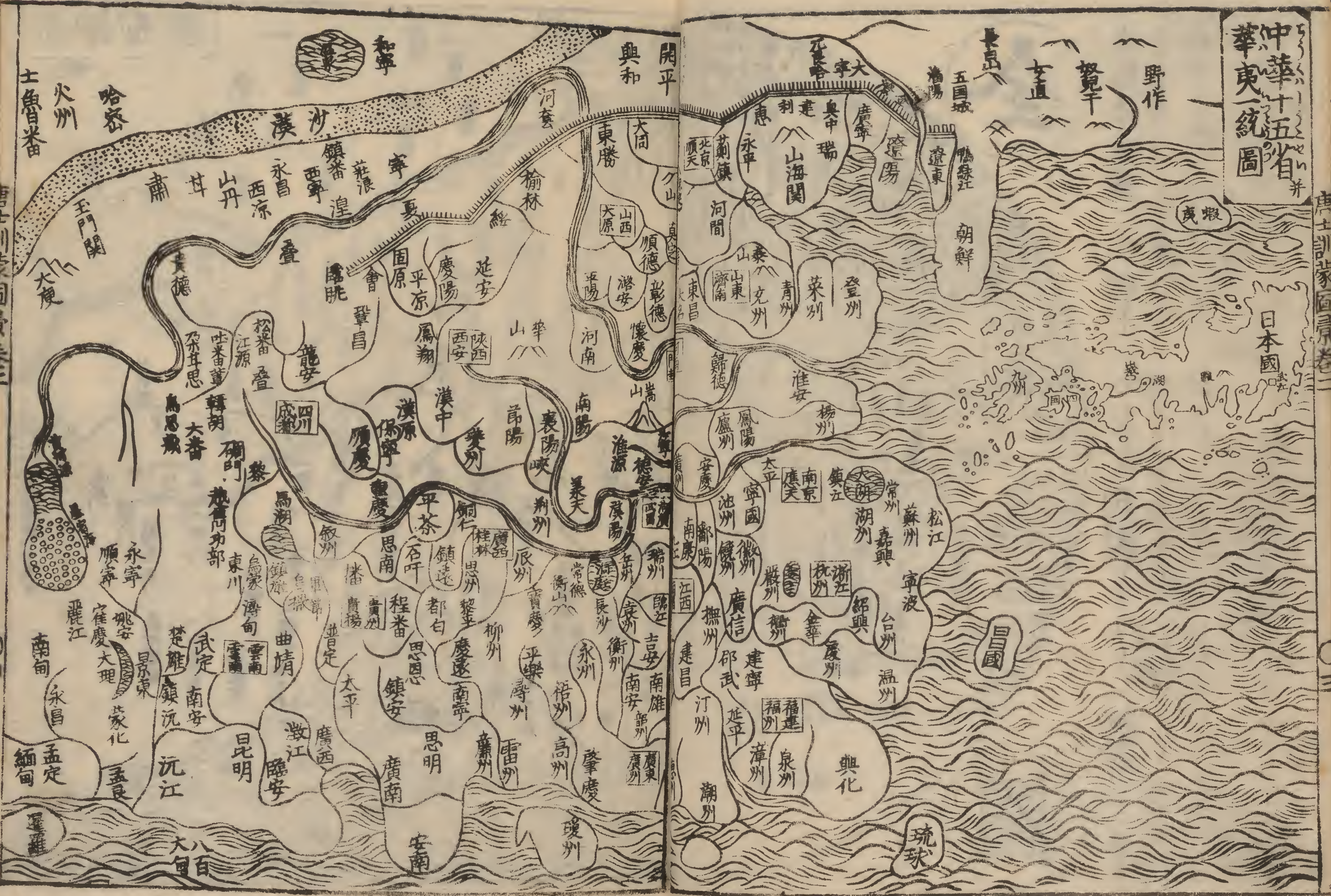
此南方地人至者亦  
改亦審其人物如何

泥加

南極界

圖

中華十五省并  
華夷一統圖



唐土訓蒙圖說卷三

唐土訓蒙圖說卷三

朝鮮國圖



女直元長哈勇

東北雄關

咸鏡道

通川郡

高城郡

江原道

南道雄師

咸安縣

密陽府

巨濟縣

南

北

甲山

咸興府

淮陽府

平康縣

楊州郡

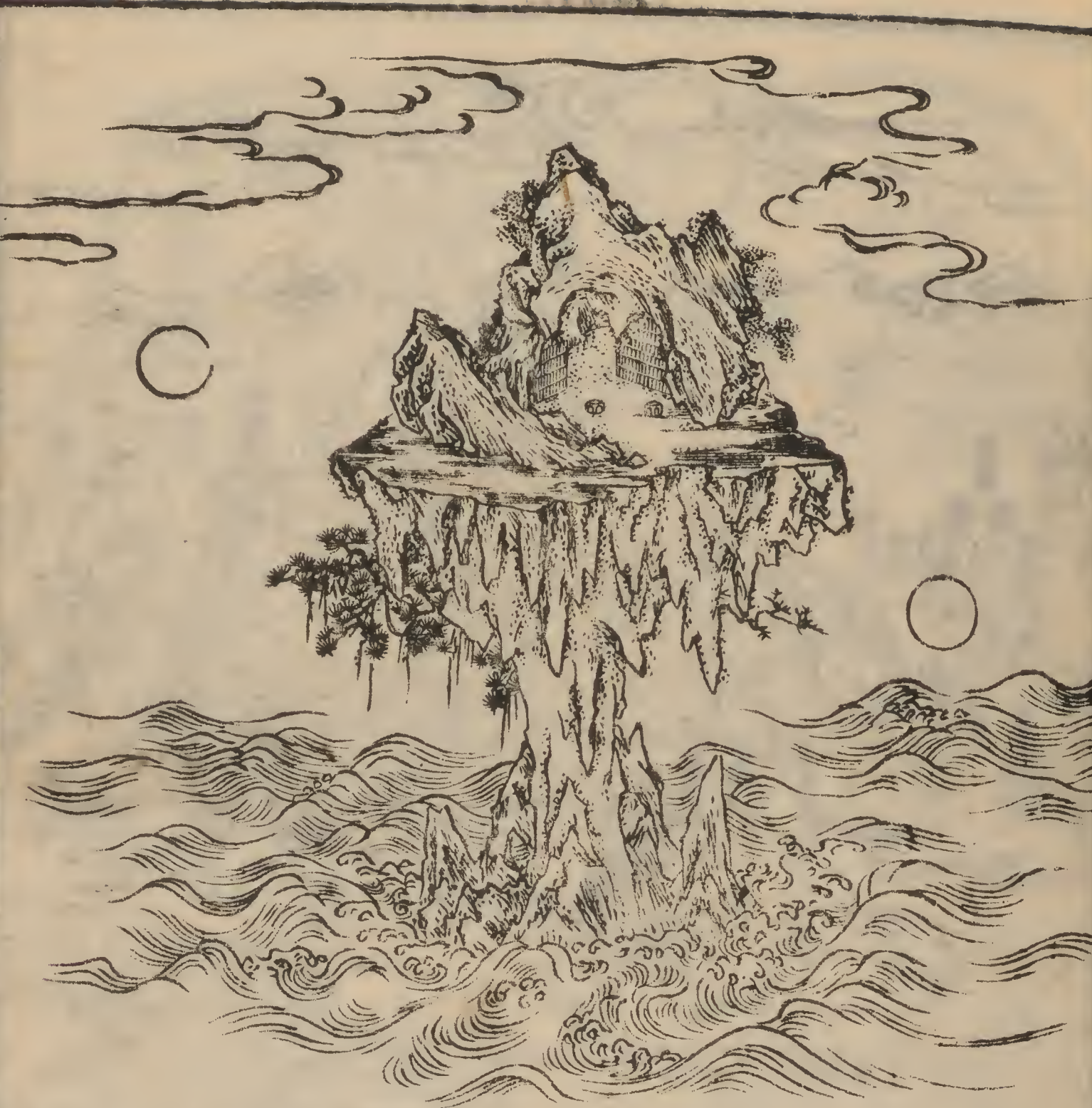
安陞縣

尚州

密陽府

巨濟縣

琉球國圖



蓬萊山一名ハ雲  
 菜東海の中ハ  
 あり高ト一千里  
 地の方三千里上  
 に金臺玉闕ニ  
 此ト神仙の都  
 上帝遊息ノ化  
 海水正通ル地  
 風々紀ノ波痕  
 奈夫人石の徑  
 永平ノトト唯  
 飛仙同ト到ス  
 者あり昔禹王  
 氷と治テ輪車  
 工の力弱水と度  
 此山トイフ  
 といハ事



孔林 尼山 山東  
 省の濟南府の魯  
 州の魯國也 兗州  
 府の曲阜縣六十八  
 里に尼山あり 母顏  
 氏の嫡子あり 尼  
 山の東に顏母山あり  
 西に昌平山あり 漢水  
 の泗水乃ち流し泗  
 河の聖林の後より  
 沂河の縣門の外り  
 あり 先聖墓を  
 聖林の中央より  
 墓前碑石を成  
 家塾石畝の中六  
 荆棘又ハ新わを  
 乾と生きたる樹品  
 ありて之を  
 と持して植る所  
 ありて之を  
 墓の南と大縣お  
 一丈人の石壇あり  
 その石各七川墓お  
 の一室ありしに  
 子貢の廬の処あり  
 墓の東南に享殿  
 三間あり 殿前  
 仲二たよりあり  
 と平石麟石虎  
 等表三川殿前  
 門三間あり 丘と  
 とん亭あり 樹  
 ありて輦路あり  
 ありて觀橋あり  
 橋の南に林あり  
 宜聖林と云



曲阜縣  
 尼山  
 泗水  
 沂河  
 聖林  
 先聖墓  
 享殿  
 觀橋  
 聖林  
 宜聖林

唐上川京國圖卷之三

唐上川京國圖卷之三







關中 四塞の

關の中西故より明の陝西省西安府の周秦漢晉唐いつとこは所都をり長安咸陽をんと

西嶽華山も西

安府の内華陰縣

のこやこり終南

山渭水驪山鴻門

号の名山舊跡文

武始皇漢人の陵

墓ももりあり



西山 大行山

より都直ぐ起伏

數百里して層巒

屹西嶽と雁と

山と雍州と寺

あり圓形寺と學

たへ回して石

湖ありそ次功德

ありそ次華嚴

寺あり三洞あり

又行て香山揚子

あり石泉漸く又

さて平坡あり石

ち後の石或ハ一里

或ハ十里二十里

廻絶僻山の天觀

ありありと石泉

の泉そこへ



玉泉山 山頂に  
 金行宮 芙蓉殿あり  
 山畔に三の石洞あり  
 石崖の上に玉泉の三  
 字と刻あり山下の水  
 溜り環十餘里を流  
 菱花の池あり清水  
 遊りてくすねくす  
 如湖に玉泉山の石  
 小石と刻ありを乃  
 けりり水とて地を  
 くのちと佩玉の如く  
 なるは玉泉の  
 のり味もわゆる  
 下八度と三天しりの  
 池ありあり石橋を  
 して橋下の水流を  
 西湖に入らま師ハ  
 景のすのりりし玉



蜀棧道 せん蜀  
 入るは蜀道より清水と  
 なる鎮園よりありあり  
 のり味もわゆる  
 大散関あり関下の水も  
 八渡水入り北の漢江あり  
 わるる虎豹多し草木も  
 と唯で城壁ありてを  
 うのちのちのちのち  
 繁しく橋あり下八白  
 寶難よりなるあり  
 同座とやなる板とて  
 するは又風嶺ののち  
 風褒都よりより自水  
 二僧て陳倉口あり  
 路嶮巖とてつる人の  
 空を松に此なる紫極  
 との寺樹石ありて  
 中寺一の寺にこれあり  
 水激湍し石盤風を  
 報難よりなるあり  
 とくくはなるあり



三柳 吳の

松江のうららし三柳  
 公府城の西南三千  
 六里あり大史公  
 云柳の言ハ茂  
 かりとてふハさ  
 かりか之亂の陸  
 援武帝は三柳ハ  
 冬温は夏涼ハ  
 こと少所之柳ハ  
 上中下あり故  
 三柳といふ浦ハ  
 大盈浦黃橋門  
 斜塘石湖秀州  
 塔あり所系  
 地多



洞虚湖

ケモノイ

ヒメノイ

湖草青

洞庭君山 岳州府

城の北一十里あり  
 又湘山と名づく狀ハ  
 十二螺髻の如ク  
 昔堯の女湘君殆  
 此に居たり上ハ  
 楚興寺軒轅臺  
 柳毅井傳書  
 亭也北昇亭響  
 山酒香山の道  
 書ハ才十一の福  
 地と云

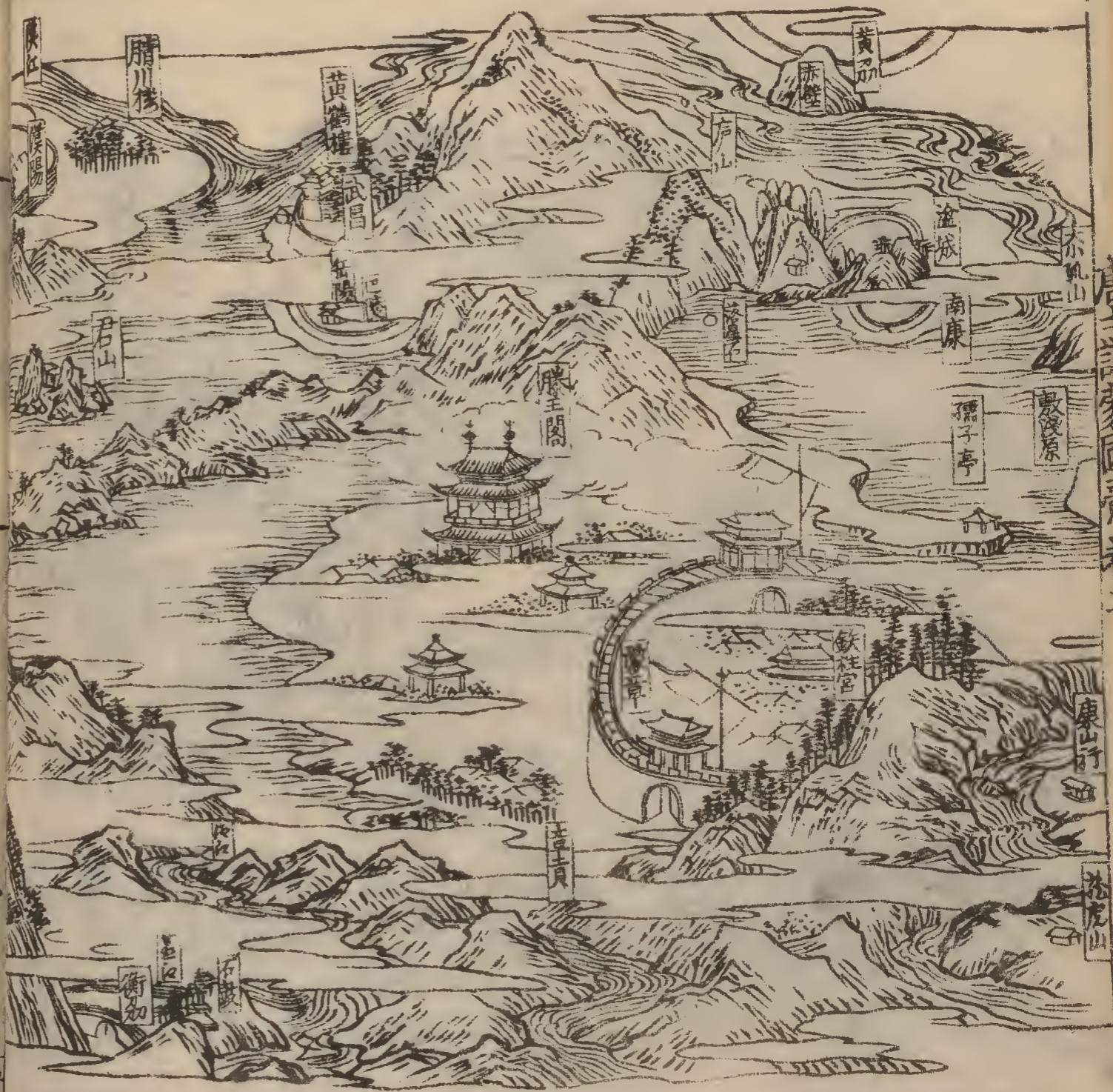
洞庭湖ハ雲霧  
 湖青草湖と云  
 つりて君山と  
 ぬぐり故に君山之  
 洞庭山といふ  
 矣山とく述



赤壁山 武昌  
 府城の東南九十里  
 あり宋の元豊五  
 年乃秋七月十六  
 日蘇東坡揚世  
 昌といふ者と二人  
 舟よりいひあしあ  
 そへり酒とのりて  
 ここのしむ世昌を  
 時洞簫とさきて  
 そのゆいといふ  
 獲子これより曹  
 操といふ人の世  
 のうへとくたぐ  
 つたふ賦をさる  
 といふ文と前赤壁  
 の賦といふ



九鯉湖 興化府  
 仙遊縣あり元仙  
 宮山聳て一峰を  
 なる石上は飛泉  
 わりて水の味甘  
 一漢の時何氏  
 とのり者兄弟九人  
 わり此泉と飲ま  
 たりて仙人とたり  
 かのく鯉を養  
 して上昇の故  
 依此と何巖といふ  
 山と何巖湖と仙  
 湖水と仙水縣と  
 仙遊といふ皆何氏  
 仙の故といふなり  
 九仙宮といふと  
 験多しといふ

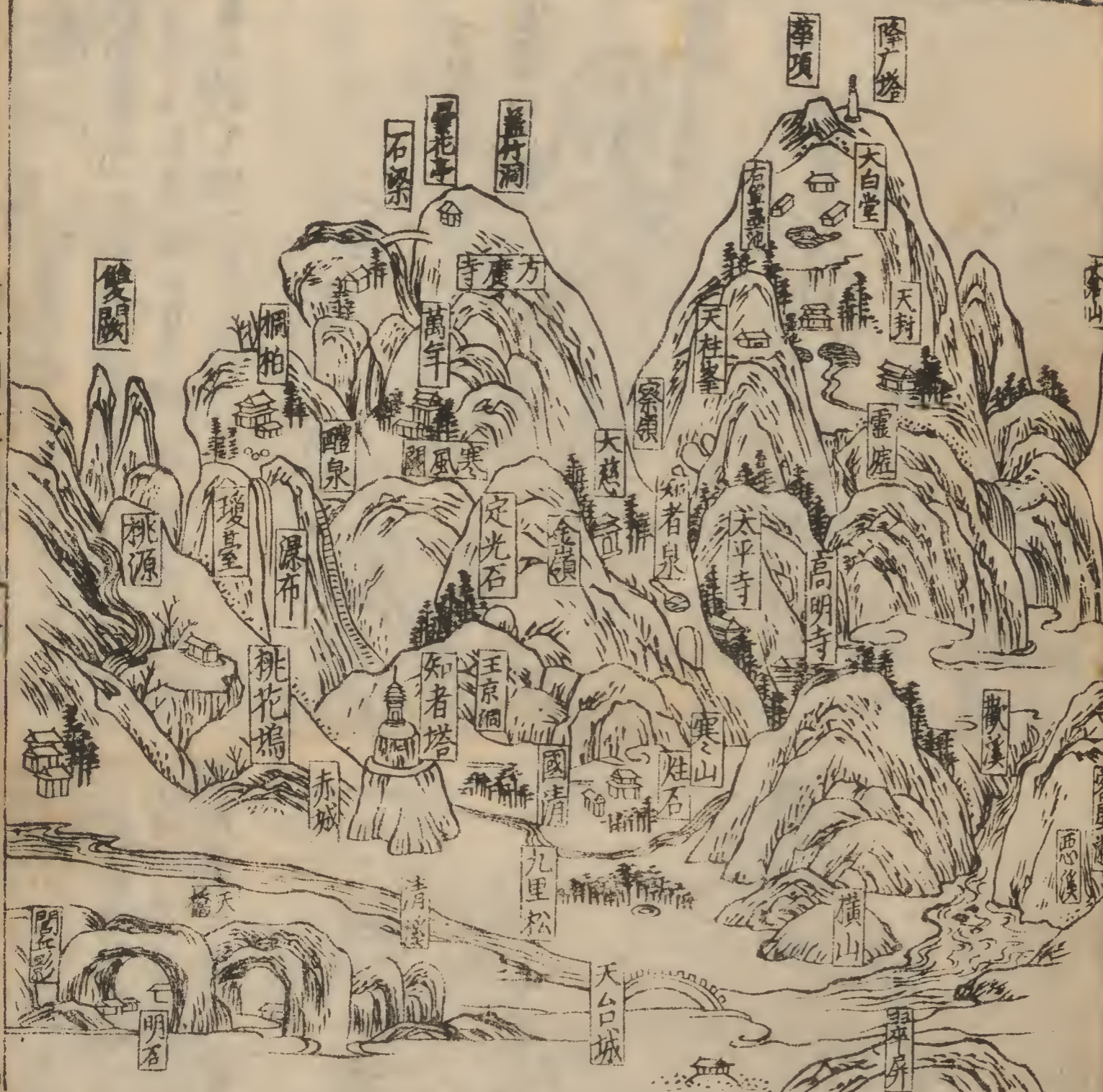


府府城の西章  
 江門城より西  
 唐の高祖の  
 子元嬰の都  
 督の府の閣  
 建らるる滕  
 封とらるる故  
 以名わり又二  
 わり南と塵江  
 北と挹秀とい  
 後子周伯嶼都  
 とりて此閣を  
 修復とす時序  
 と王勃十三歳  
 あり名文し今  
 國ハ文よりて

岳陽樓 岳州府



大岳山の陽より  
 故に岳陽といふ樓  
 郡治の西ありて  
 西面六洞をたを  
 君山なりけり橋乃  
 創始され云とを  
 ありて唐の開元年  
 中中書令張説出  
 て此邦に字あり  
 目こり木と登り  
 して洵とつらふ  
 ありて橋の名わ  
 らつた後字の橋  
 宗敬つらふと  
 范希文の記とつ  
 らつて蘇子美乞  
 と書さるる跡の  
 首に篆しと世  
 一四絶と稱は



黃鶴樓 武昌

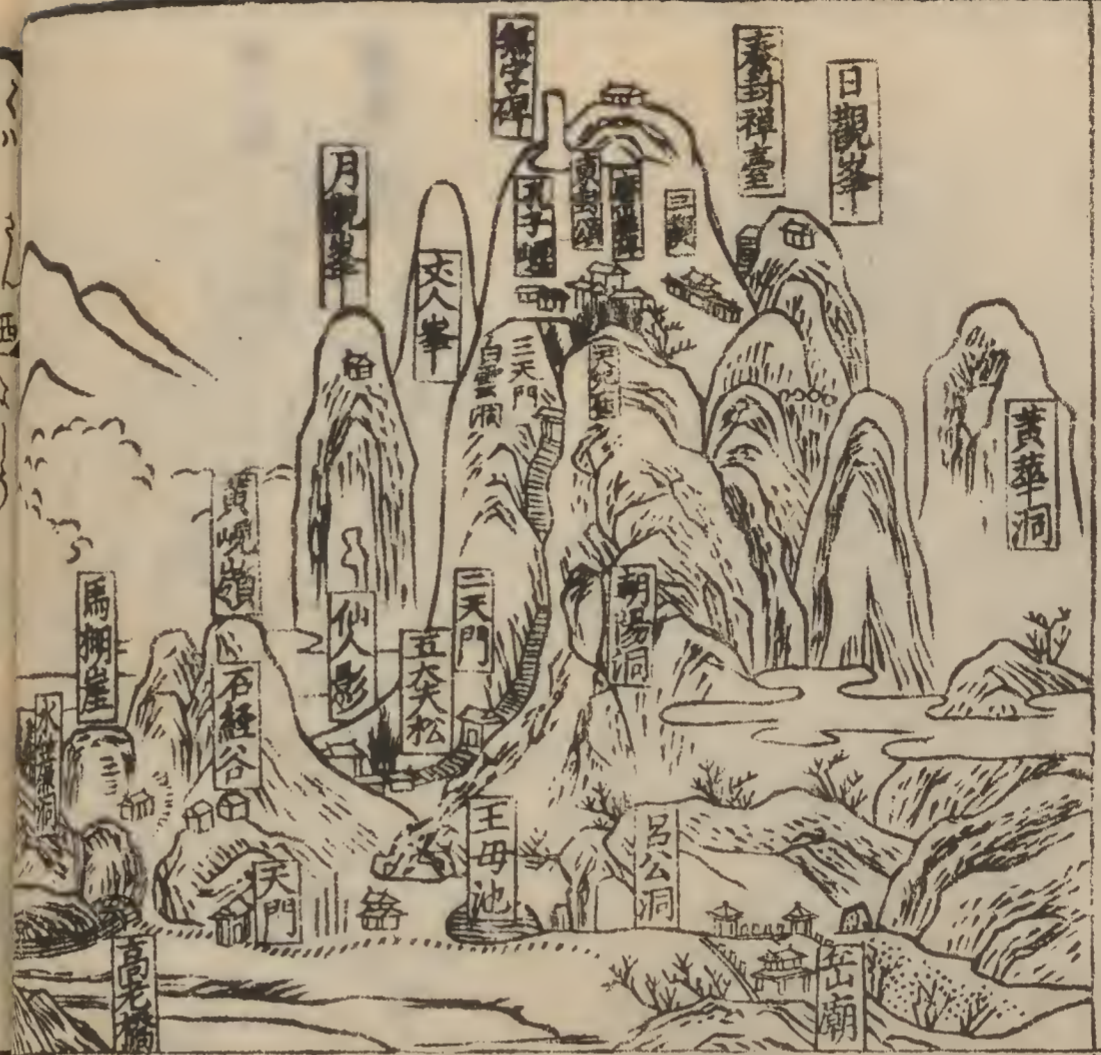
府城西より、  
 費登仙黃鶴樓、  
 驚く此、甜心へ、  
 故、遂に、  
 其、  
 上、河、漢、  
 江、流、の、  
 橋、と、い、  
 昔、人、已、乘、  
 此、地、空、  
 黃、鶴、一、去、  
 白、雲、千、載、  
 晴、川、歷、  
 春、州、  
 日、暮、  
 天、台、山、

天台山

山、八、天、台、  
 百、二、十、  
 八、重、  
 高、一、  
 廻、八、  
 星、一、  
 嶽、と、  
 寺、院、  
 その、外、  
 半、天、  
 布、ハ、  
 乃、類、  
 く、記、

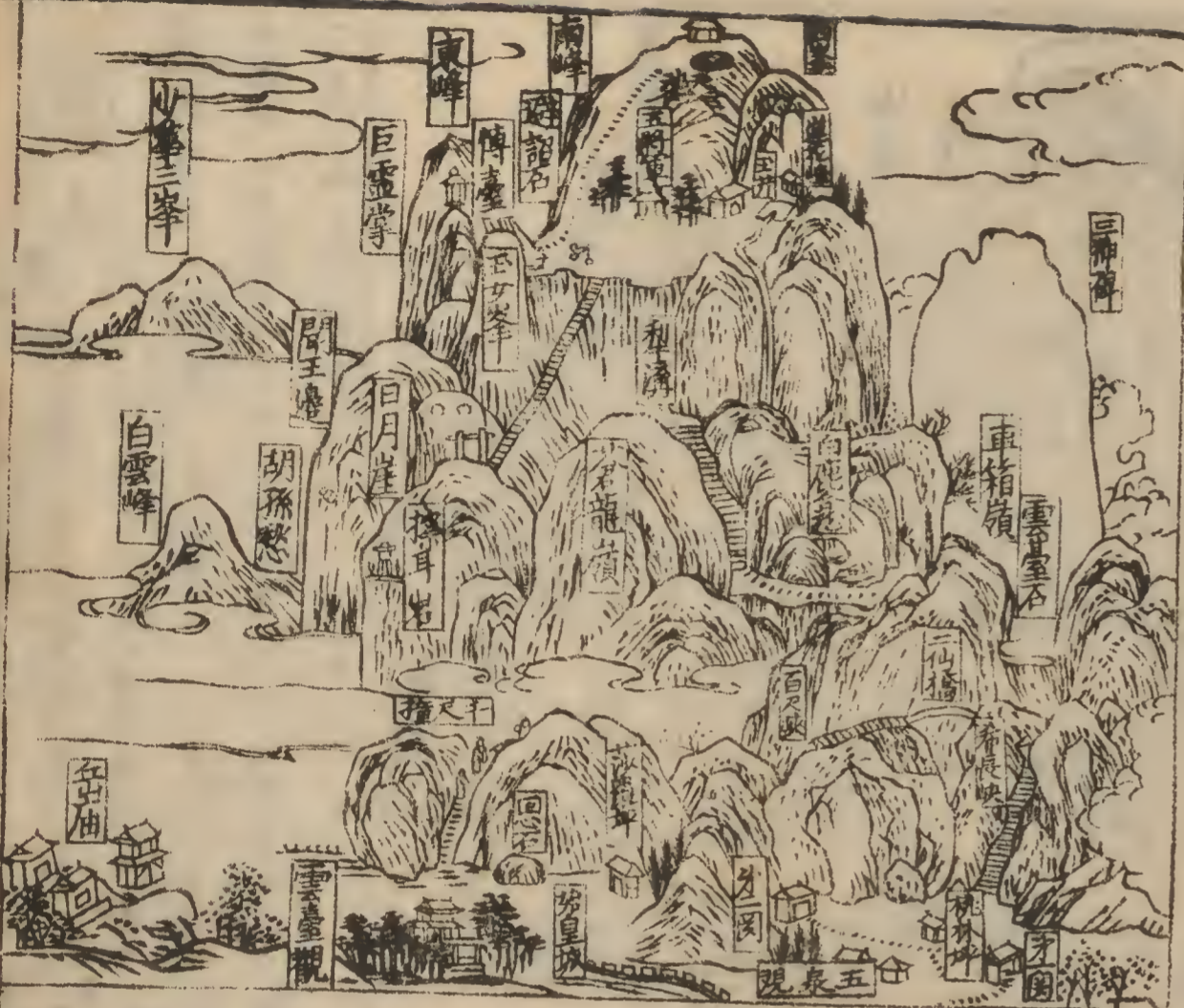
泰山

山東濟南府泰安州あり五嶽の東也一名天孫天帝の孫といふを尊とつゝ王者命ヲ受つ時ハ必封禪に皆石ヲ刻て功とむるに



華山

潁州の山鎮五岳の西あり項王池あり千葉の蓮と生れぬと服すれし物化すく々華山といふもの名勝旧蹟とくく化々



衡山

荊州の山鎮五岳の南也周旋數百里高四千一十大東南ハ湘江のほとり湘川より長沙より七百里九向九背ハ禹王登りてこれとすつゝ



恒山

山西大同府五岳の北あり恒ハ常ニ常山の事と三子九百丈七尺周廻三千里大玄の泉神州十九種ぬれと依りてせと度へ

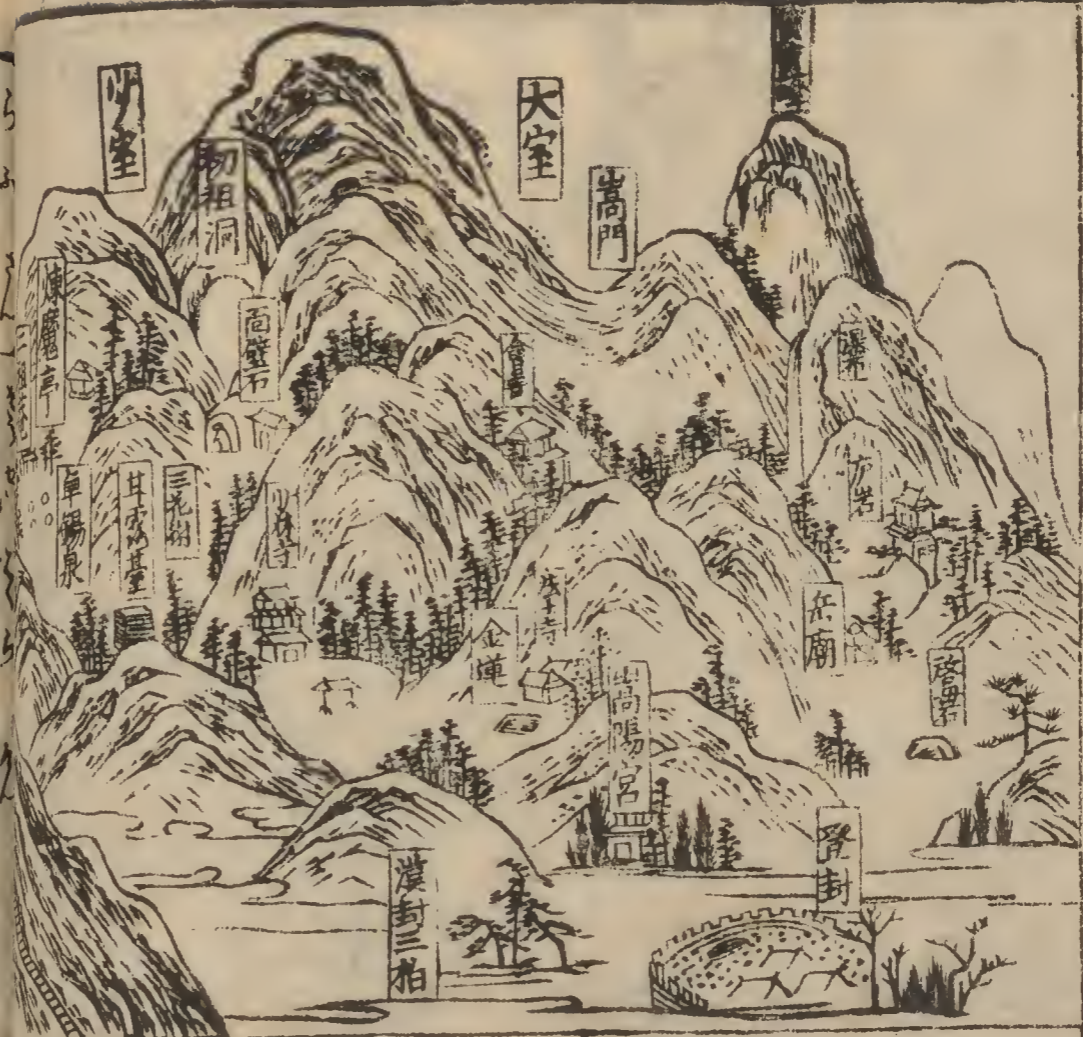




高山

河南府登封縣あり中岳

名ありて山東と大室と一とを以て  
室といふれと十七里ありて終名あり  
二山名石室ありてありてあり



羅浮山

增城博羅二縣ありて

逸よ海上のそびるこ三千六百丈峰密  
四百三十二寺棲白水石巖洞池のつゞく  
しつとくありてあり



雪堂

蘇子瞻元豐三年二月

美州に讒されち獲馬正卿より舊屋と  
與りありて雪中に造作せりてありし  
故に四壁に雪と畫く雪堂と名づく



鹿門山

襄陽城外ありて

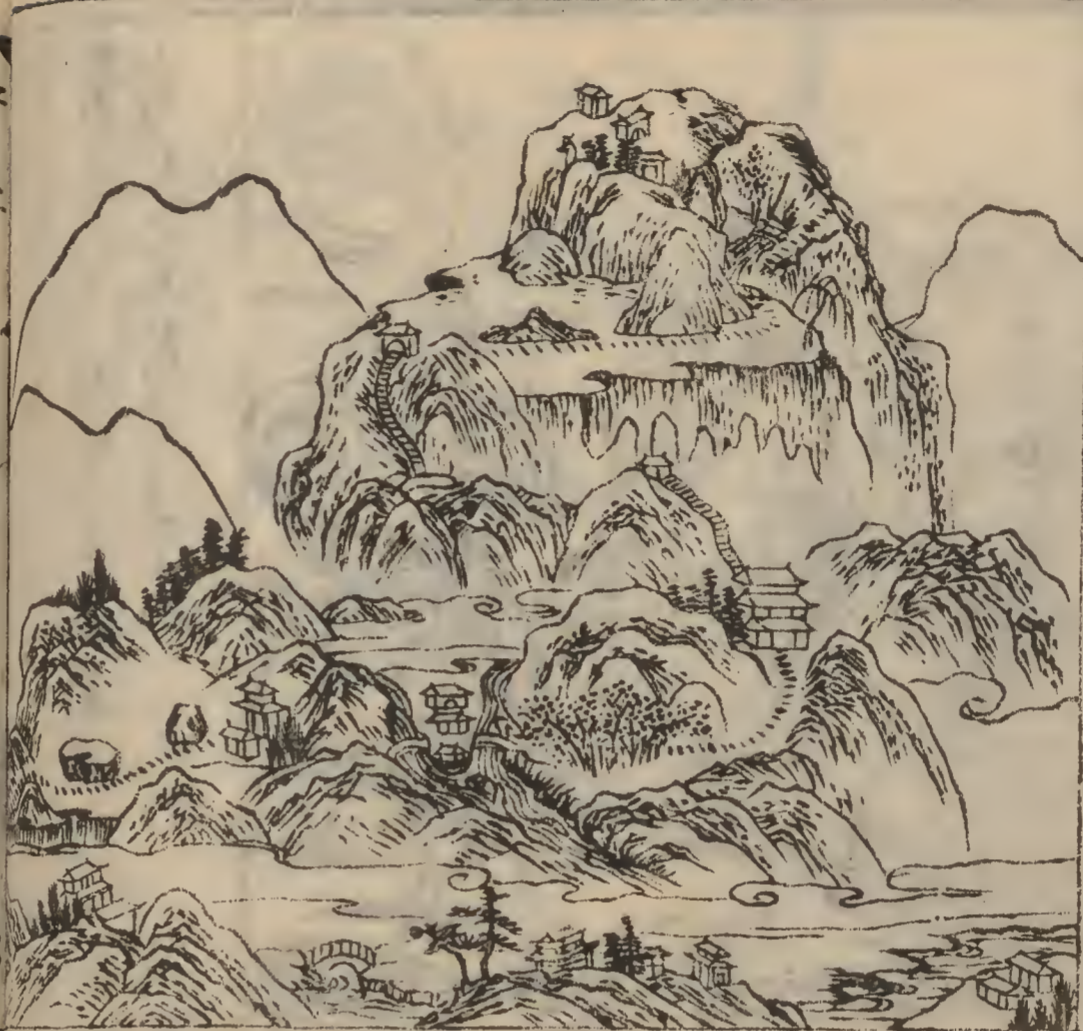
世に水裏抱て真々隠士の居こびり  
龐徳公ありて居りて唐の孟浩然  
鹿門歌ありてありてあり



峩眉山

嘉定州峩眉縣あり

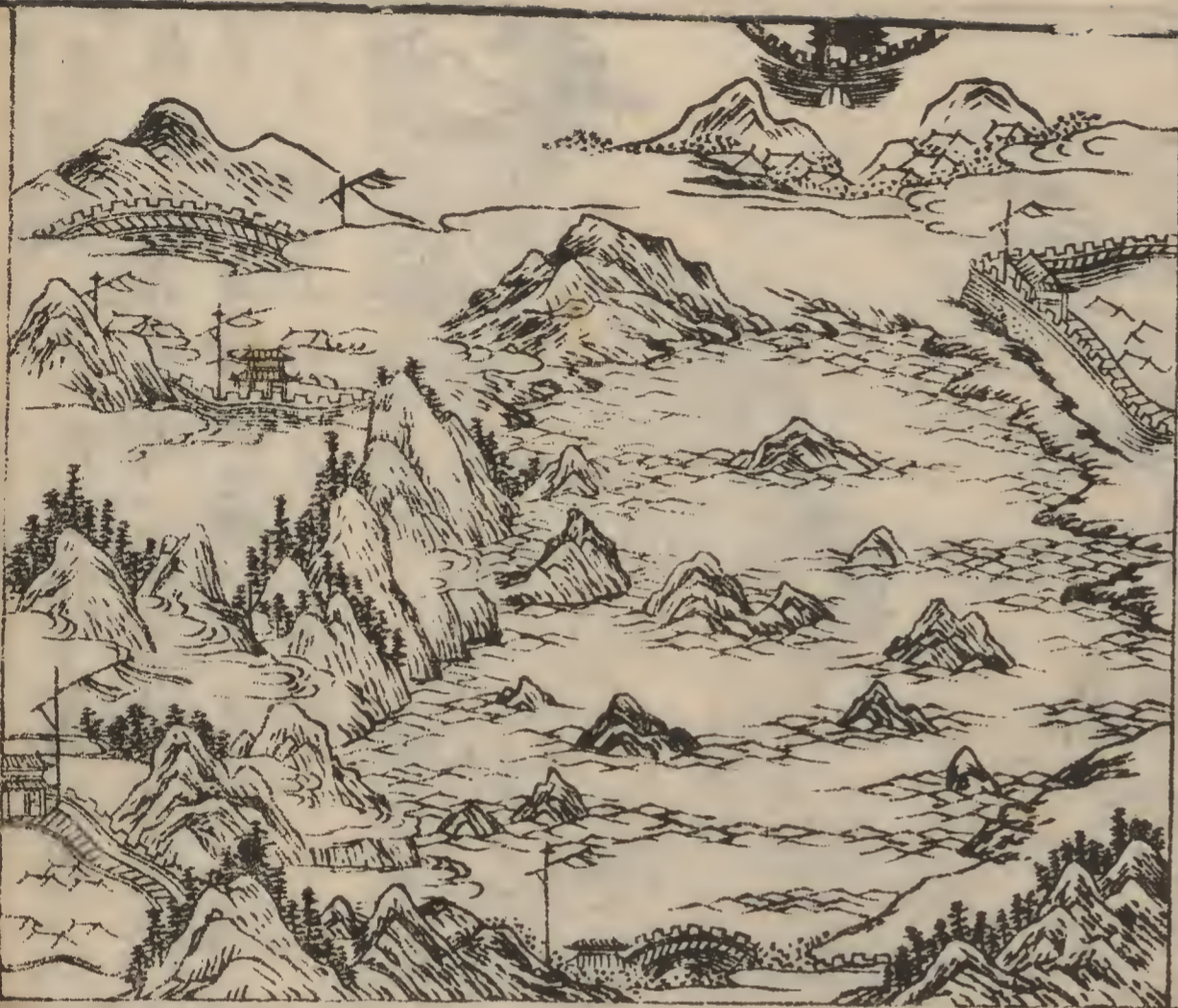
峩眉二三大峩中峩小峩一  
大峩其高といふくろり  
佛書に元平の普賢大士示現の所なり



五湖

呉郡の宛ありありその

三萬六千頃中に七拾二ありて三と  
後等といひ一名具區一名笠澤一名五  
湖と名けりすて大湖といひ



養龍坑

長官司両山の間にあり

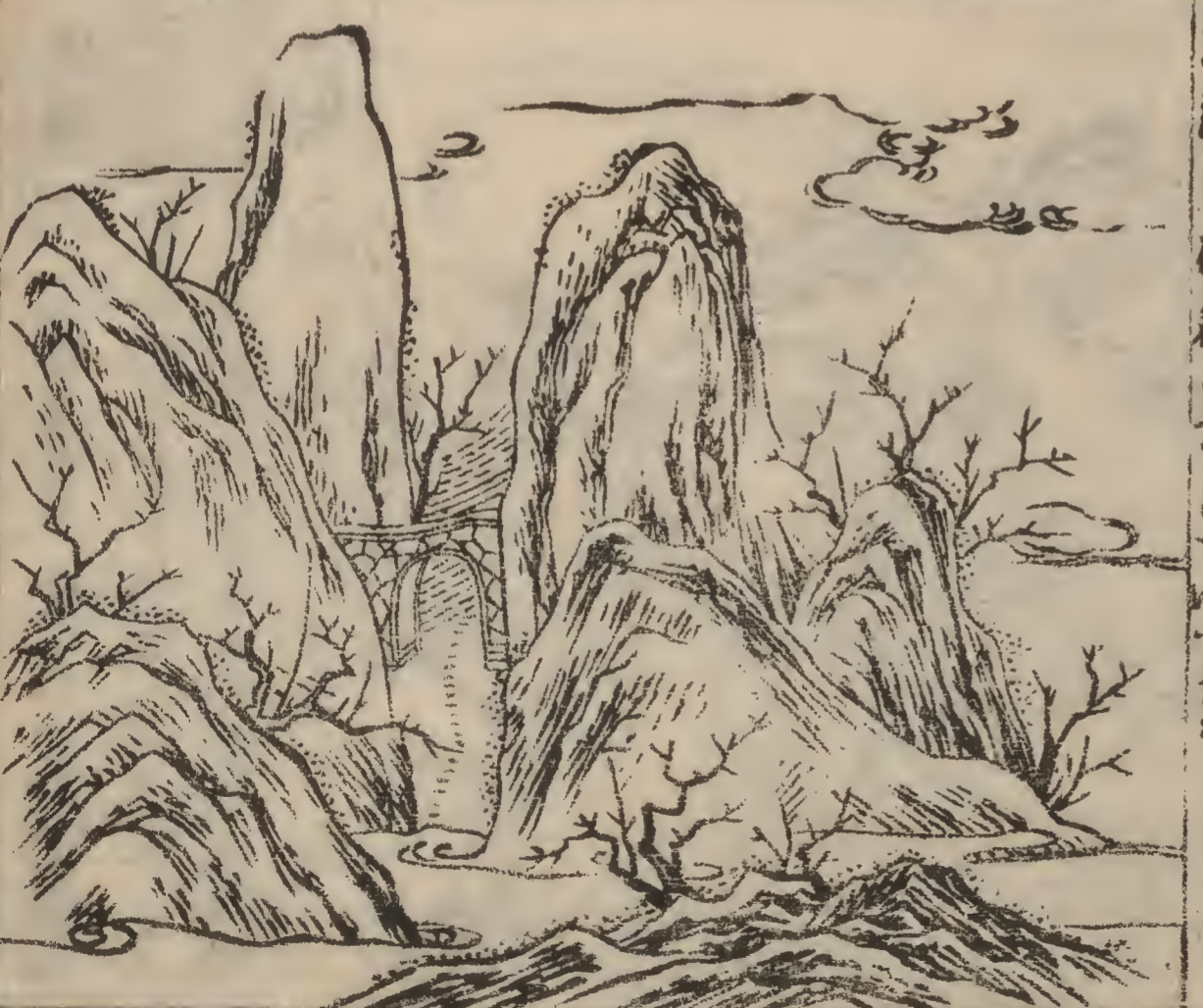
けりりの水は源一重地なり上かろり  
乃以雲霧胸負遊遊り地りりて鳥と  
棲りて必は龍と名けり漢武四年  
元長大蛇のると名けり此より



大庾嶺

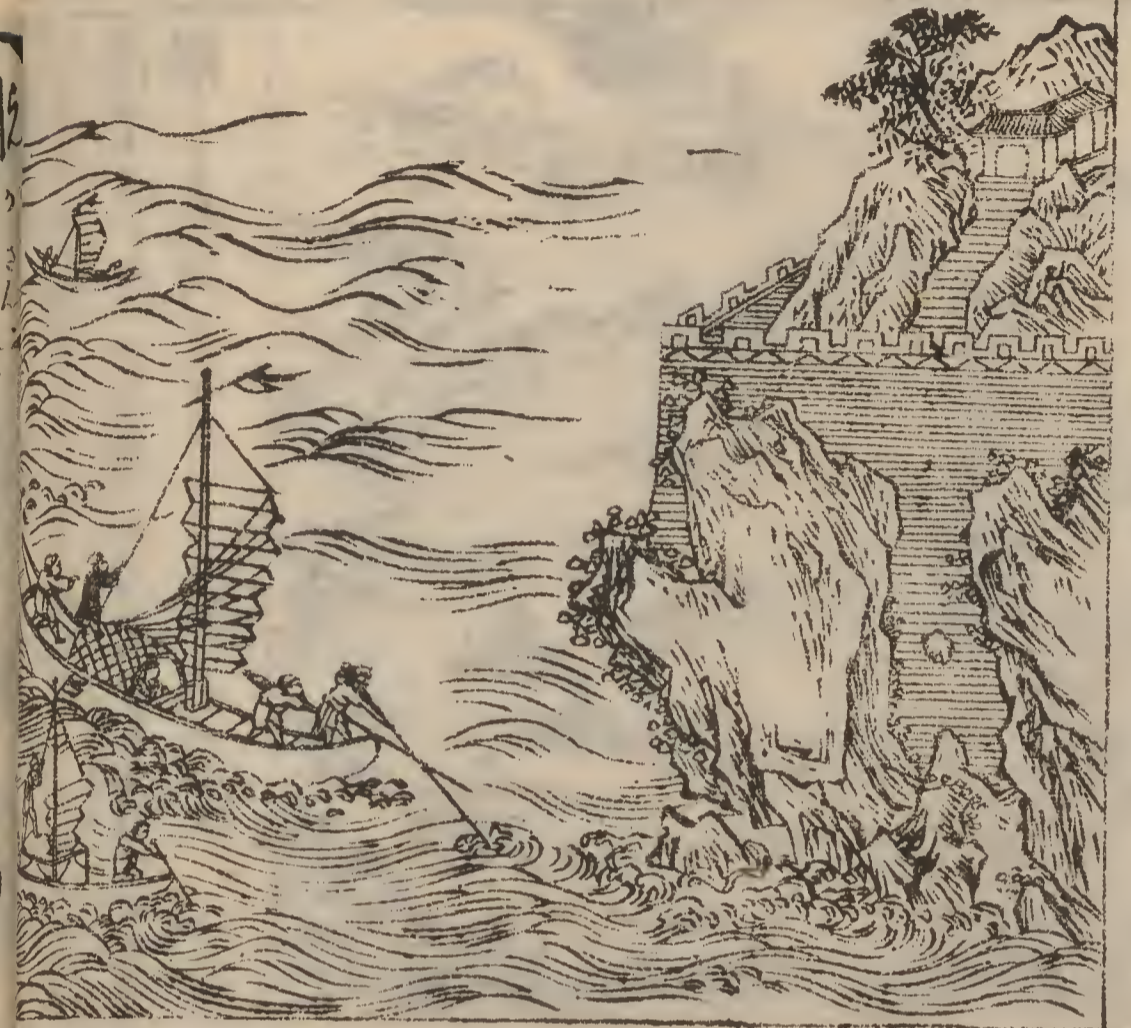
南安府城あり五里あり

山ろく嶺へりり砂ハ山嶺の路峻阻  
通りりり唐の張九齡石壁と開  
折路と名けり上梅多一  
嶺ハ梅福



石頭城 吳人石頭山據て城を築き

故より諸葛亮が石頭虎踞といふ是より石頭西顧の下大江に臨みり洞あり是も亦洞天といふ



爛柯山 一名石室下は石橋あり

道書に此山と名を震とす竹八の洞天といふは王質此山に入て童子の奕とて斧の柯乃短なりとあり



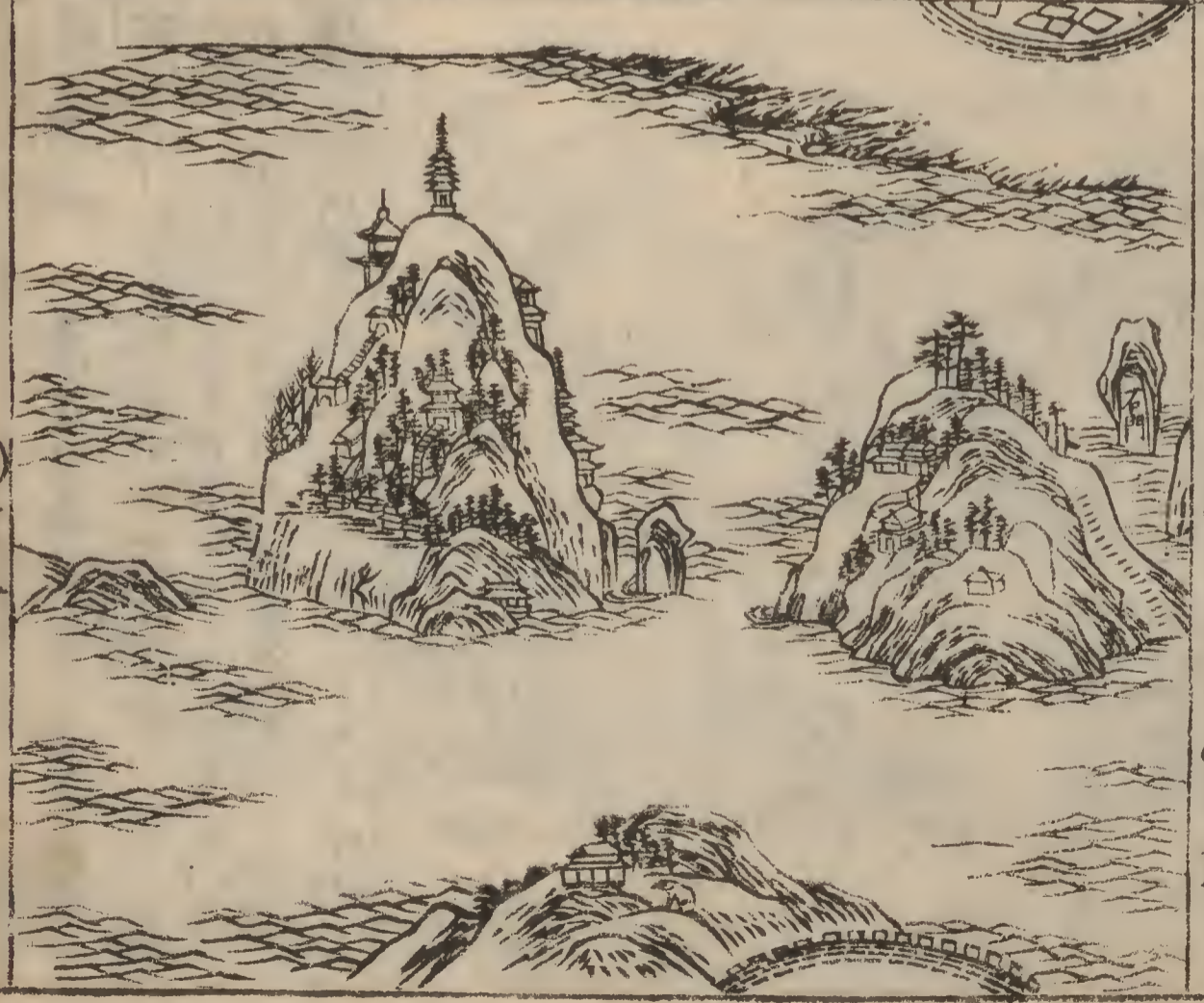
桃源洞 常德府桃源縣桃源山

桃源洞あり一名秦人洞洞の北より桃花溪あり晋の太元年中武陵の人秦と避る人ありといふなり



京口三山 北固山ハ京口城の北あり

下長江のうむ金山ハ揚子江の心ありても東のふと焦山ハ京口城の東北ありお中三時三のふと





唐土訓彖圖彙卷之三

名の下に  
和名と附

宮室

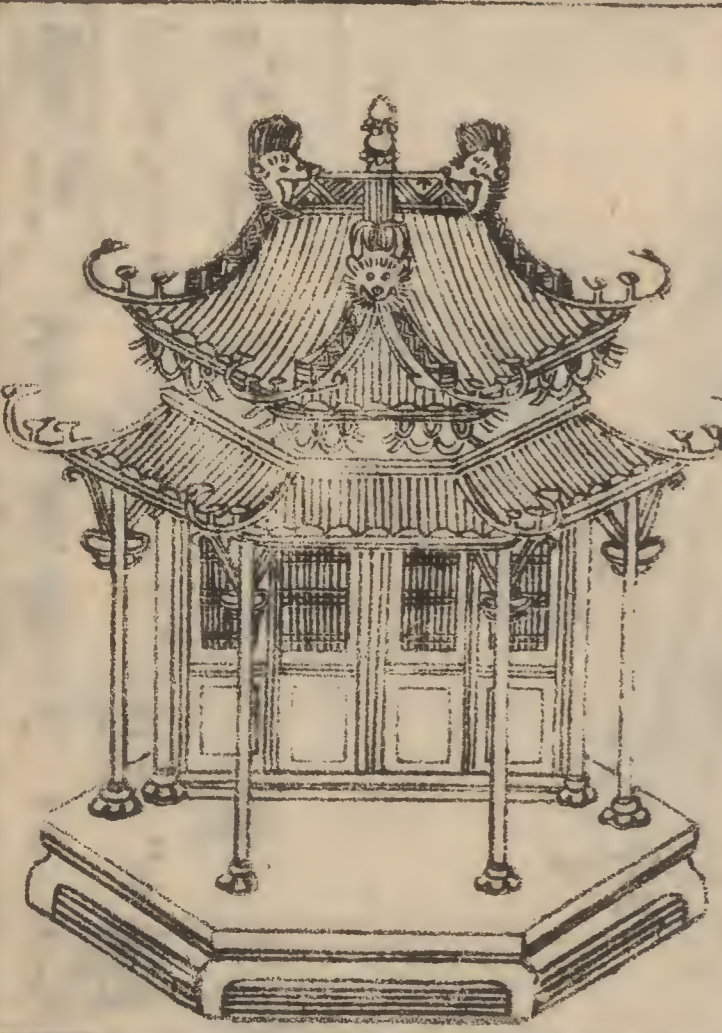
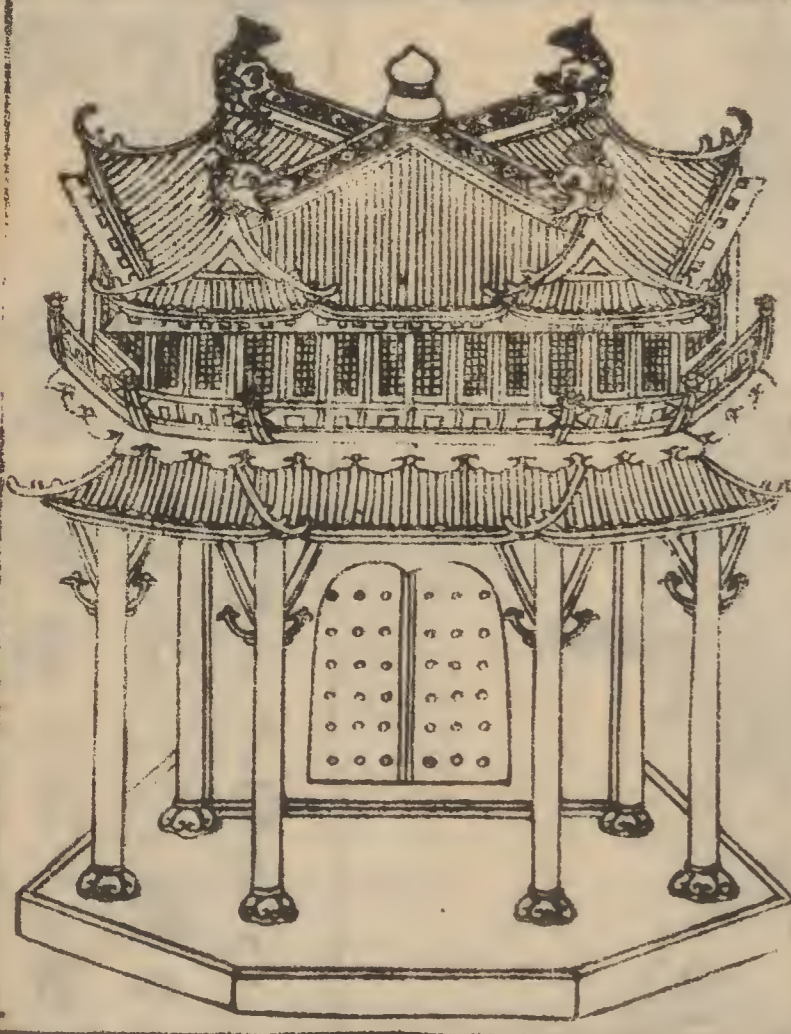
易の「居而野處後世聖人易之以宮室此郊也天子之宮也下民同之村居也」  
易の「居而野處後世聖人易之以宮室此郊也天子之宮也下民同之村居也」

宮

宮の字は秦の始皇帝のころに  
合宮の秦の始皇帝のころに  
合宮の秦の始皇帝のころに

殿

殿の字は秦の始皇帝のころに  
前殿の秦の始皇帝のころに  
前殿の秦の始皇帝のころに

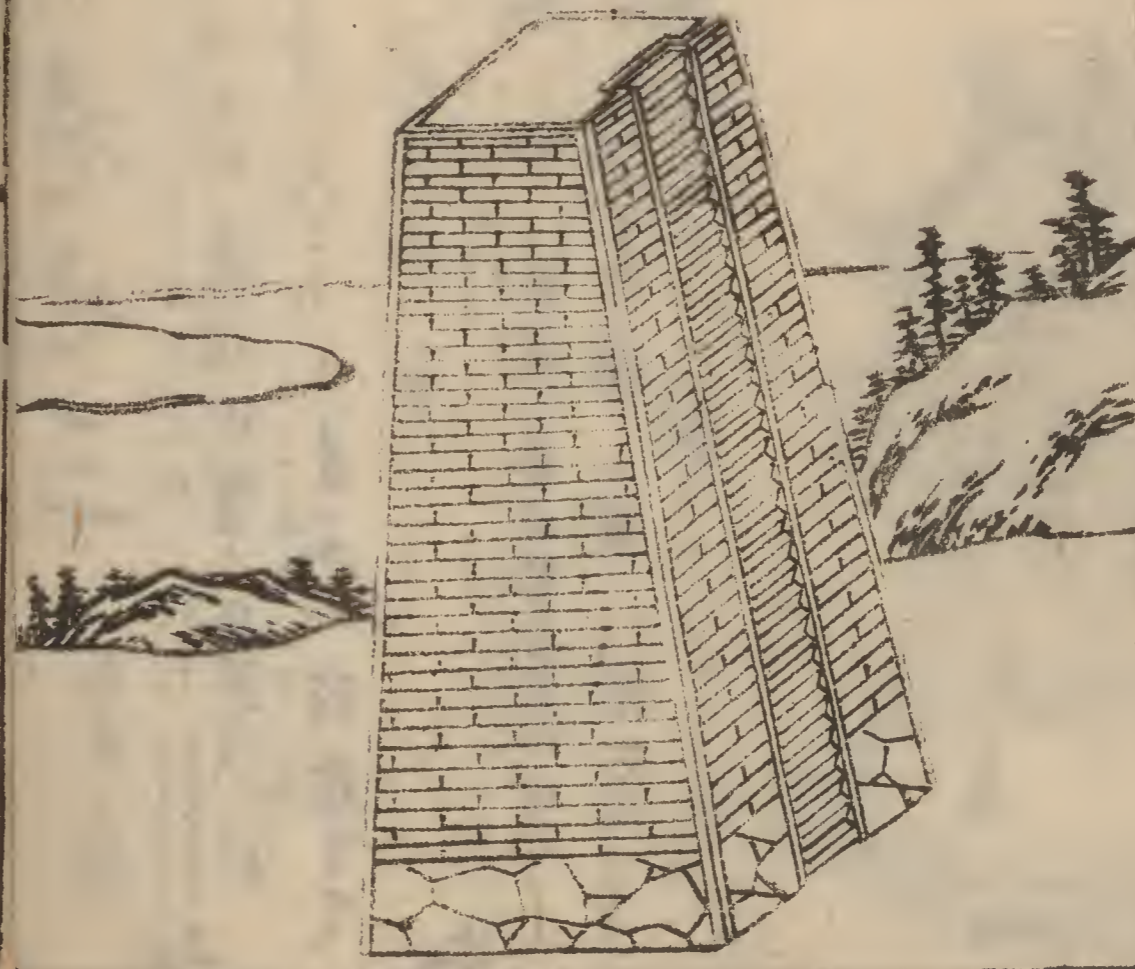


唐土訓彖圖彙卷之三

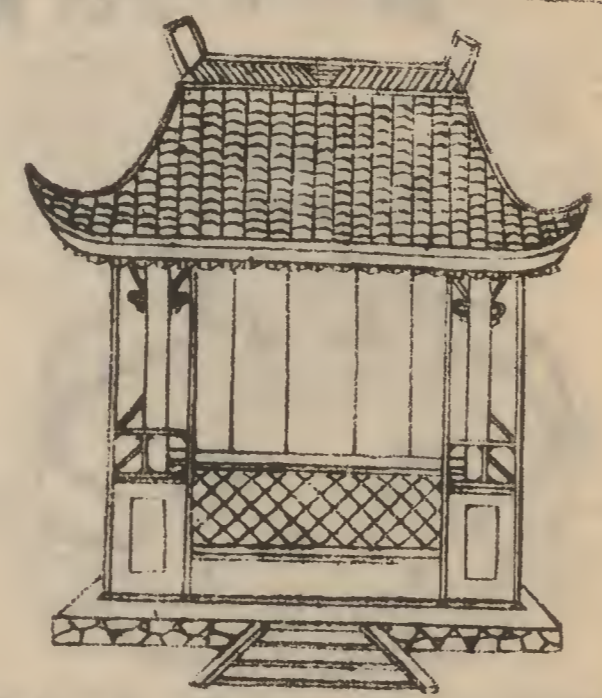
觀 阿闍の黃帝の比々所  
 白鳳阿闍の巢々といへり阿闍ハ  
 樹乃之今一重なりものなり



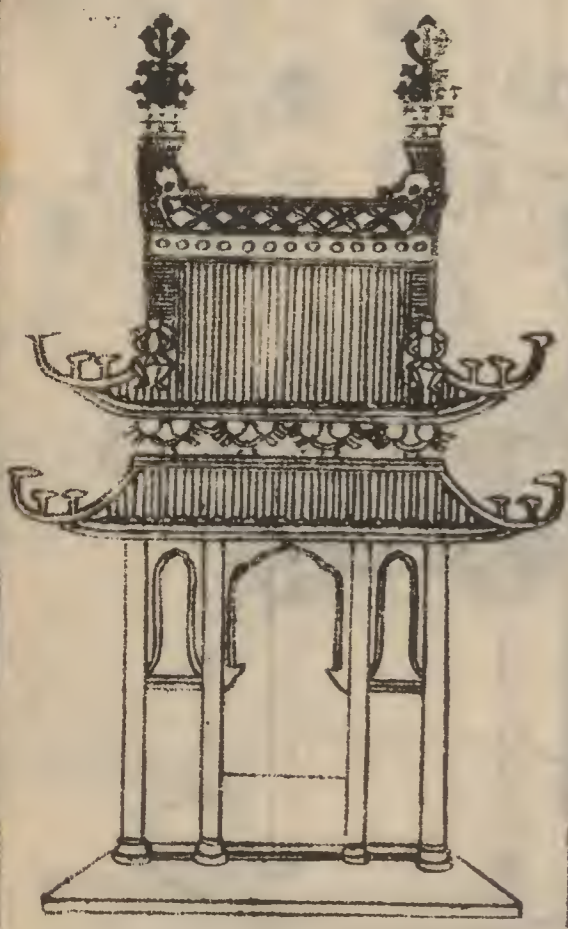
臺 臺の黃帝乃々  
 つらとこらし高くして四方を觀  
 めがれといふなりとの謝といふ



明堂の黃  
 帝の比々  
 取なり明  
 の字乃かハ  
 孔義れ管  
 たりとあら  
 と明んす  
 牙意かり

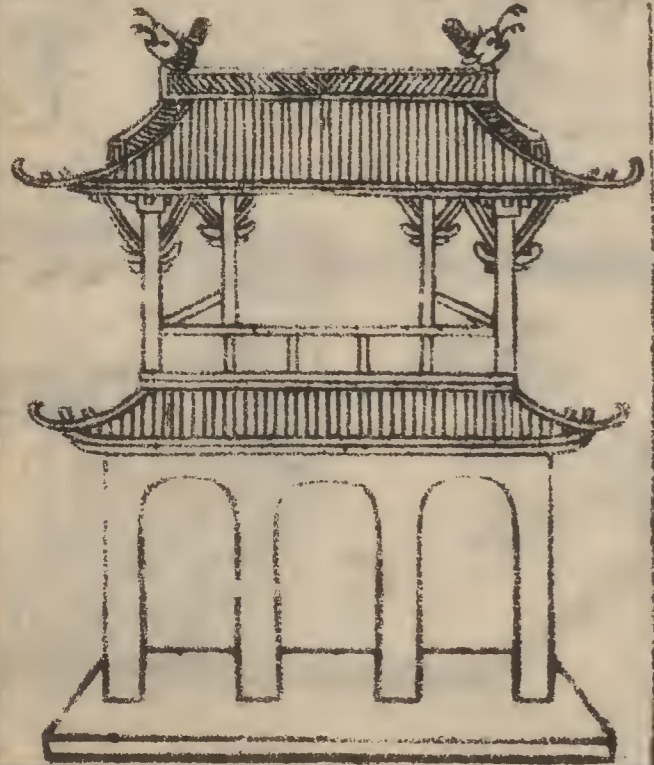
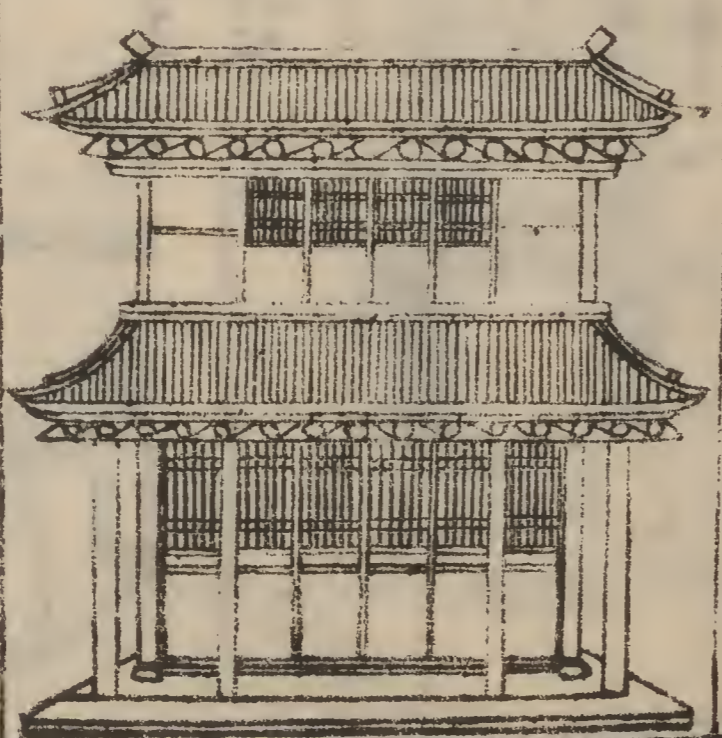


觀 黃帝元始觀をつらとこら  
 觀ハのぞととの意なり又奈樓と



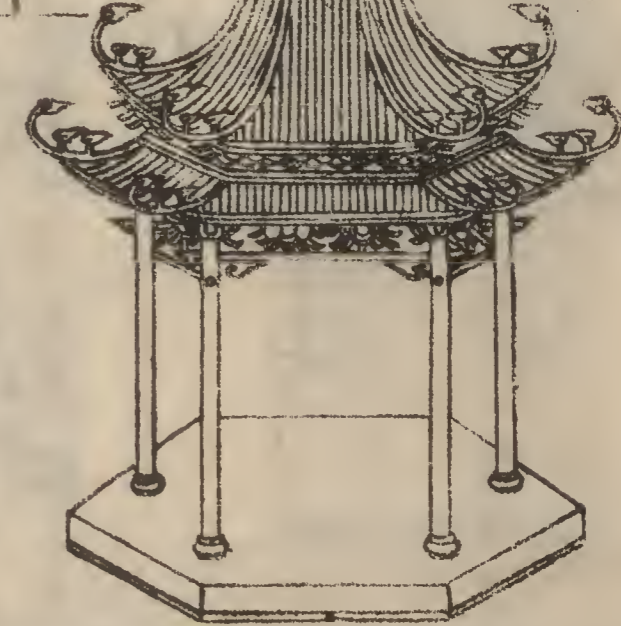
方士漢の武帝に建てて曰黃帝  
 五城十二  
 樓と爲す  
 神人と使  
 と武帝  
 られと信  
 して幹樓  
 とつらと  
 まる

門闕とて  
 とを柱と  
 中に門を  
 わきを  
 の中乃  
 けり意



亭  
下

の字の意にて  
ゆるりあつた  
てく秦の法  
十里  
ありつらと亭の  
長とつらかり



容

舎なり他國  
より来るもの  
賓使をよと  
りてつらかり  
つらかり  
つらかり  
つらかり



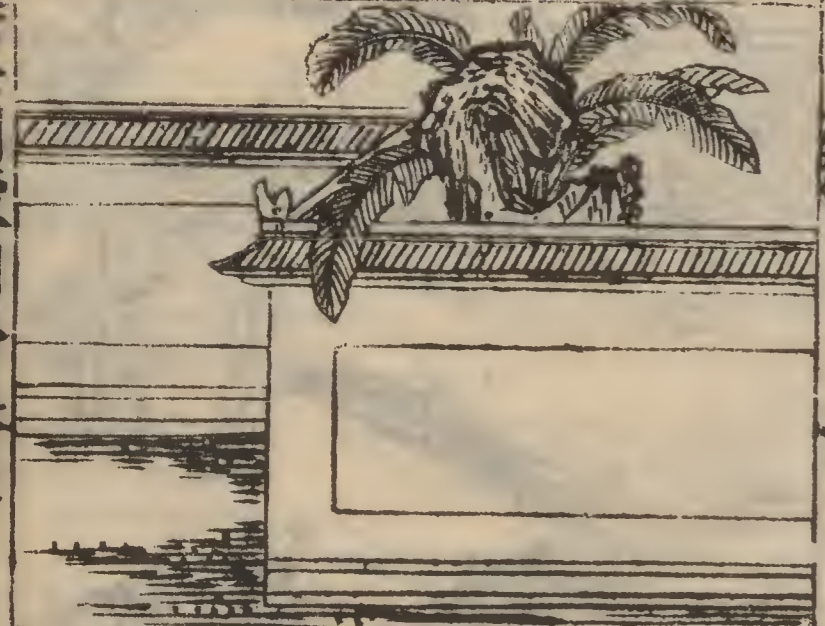
齋

宣帝齋居と  
事と交りつら  
より此名あり  
後一説仲堪  
池のやつら  
屋とつら  
所とつら



堵

時よりつら  
人として  
とつら  
とつら  
版とつら  
安堵といふと遷  
勢さつら  
史記がつら



庭  
下

の門といふ  
間と庭といふ  
黃帝大庭の  
館といふ  
庭の名黃帝  
つら

宅

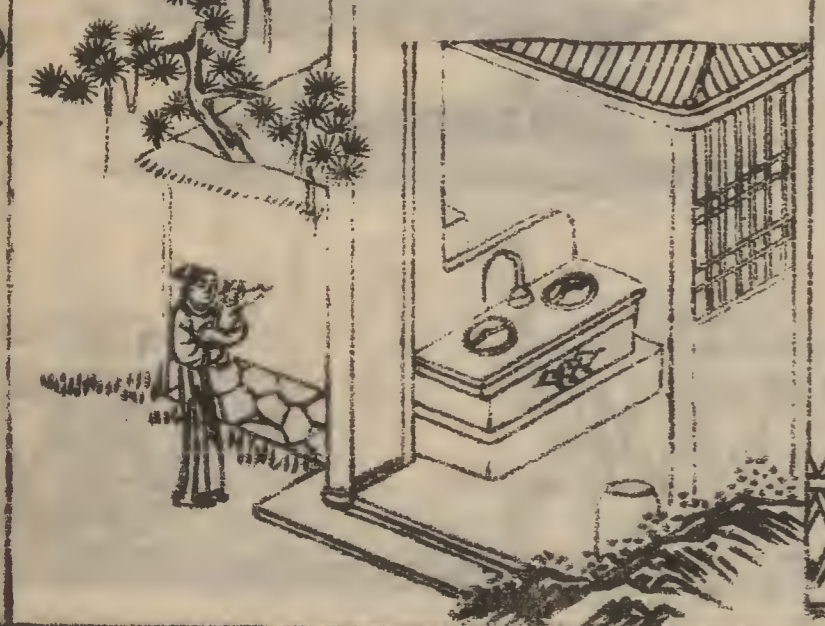
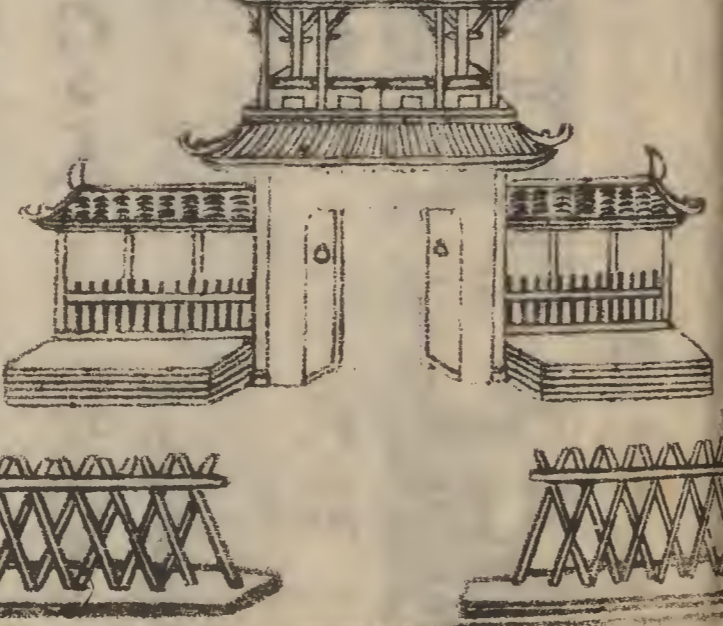
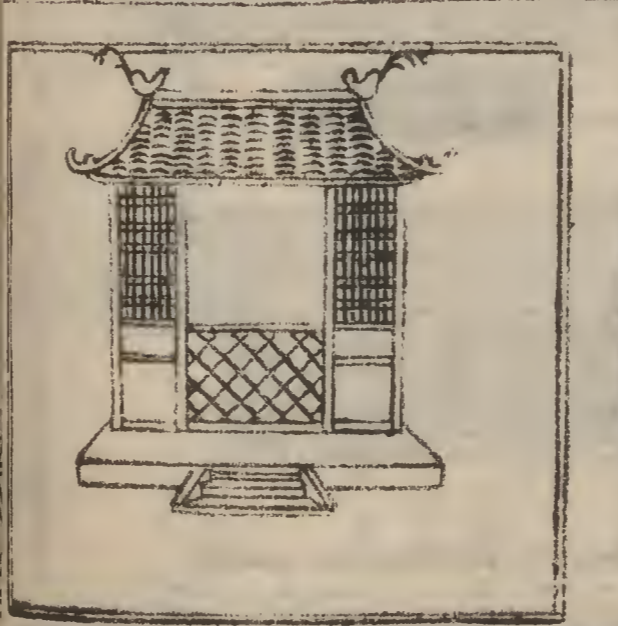
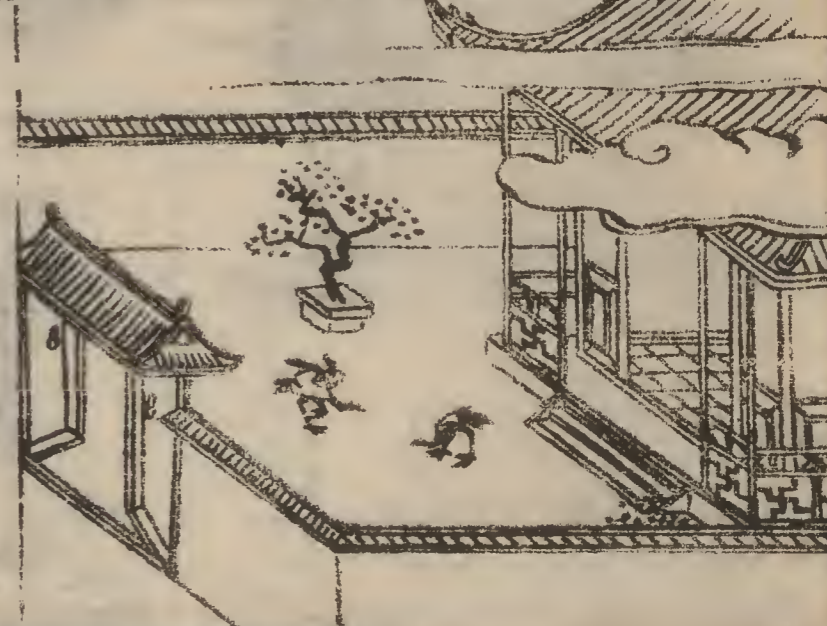
孟子が  
五畝の宅  
つら  
つら  
つら  
つら

廡

百官の居  
所と府と  
つら  
つら  
つら  
つら

堂

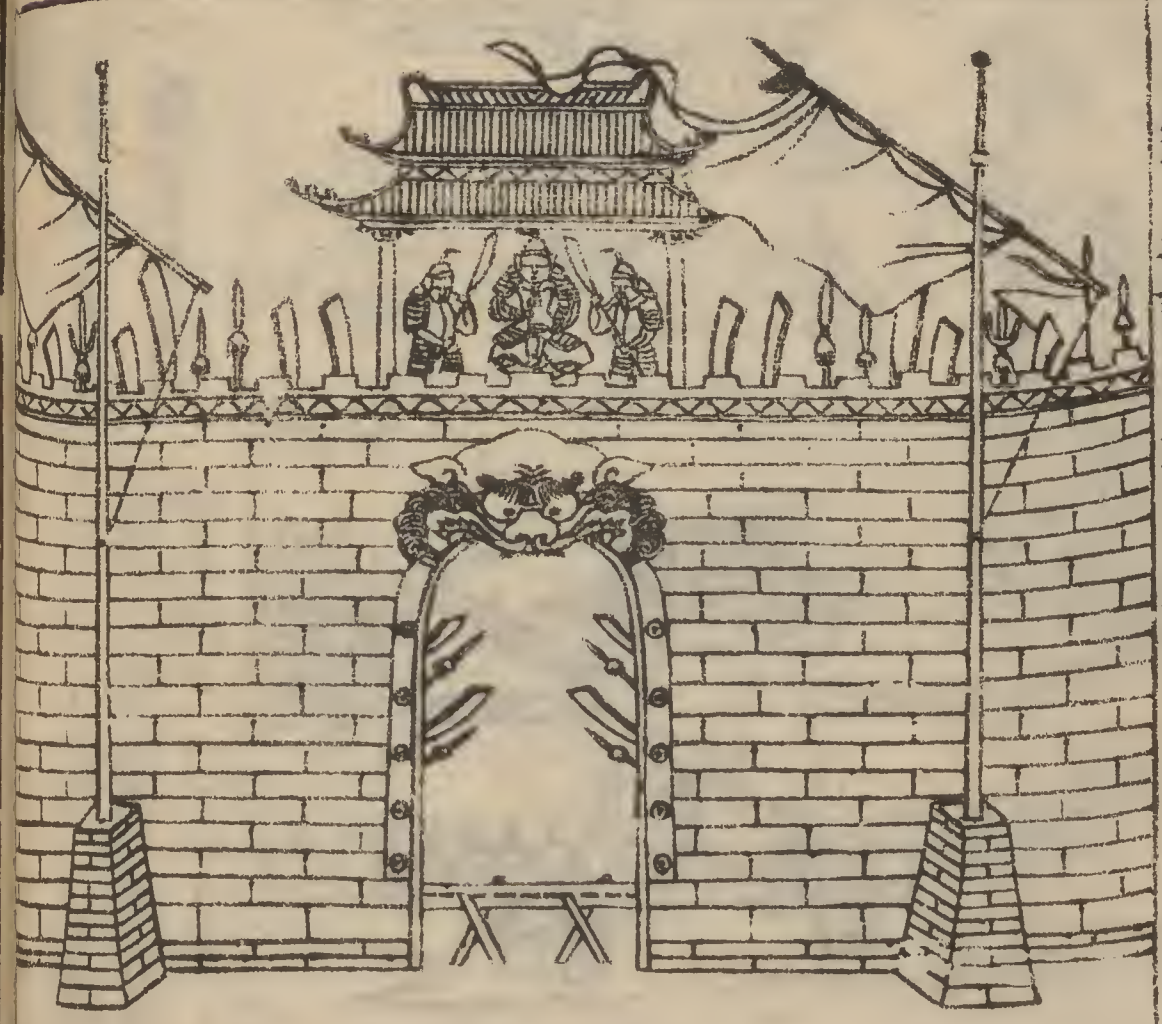
むつら  
義始  
つら  
つら  
つら  
つら







**關塞** 關ハつと塞ハ入と樂  
 非常とまのりつとつらかり塞ハ隔  
 かり遠城の邊のつとつとつと  
 ○塞ノ和訓コレキトヨムナリ



**星鋪** 肆のつら...  
 此の世は...  
 故に星鋪



坊ハ方  
 とつと  
 名漢の  
 時つと  
 とも

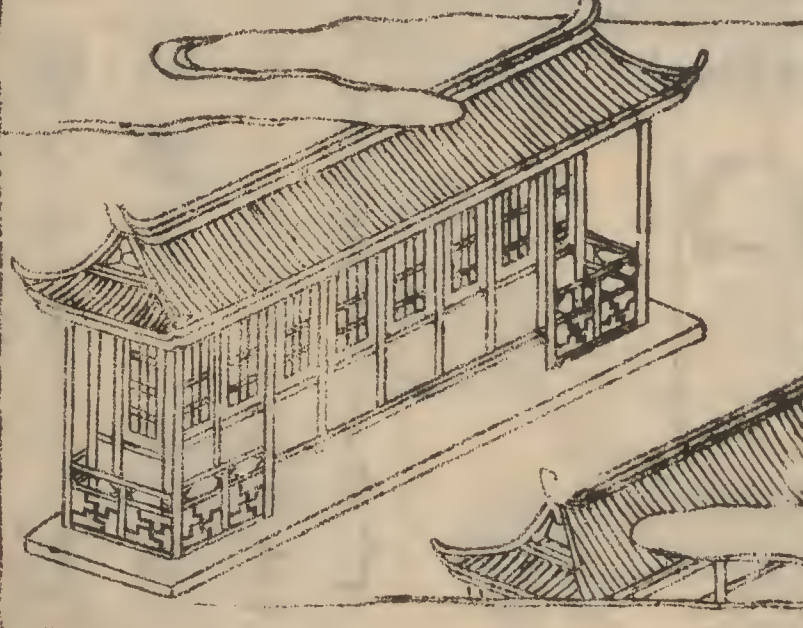


果中乃  
 織物家  
 條練を  
 つつと  
 石とつと

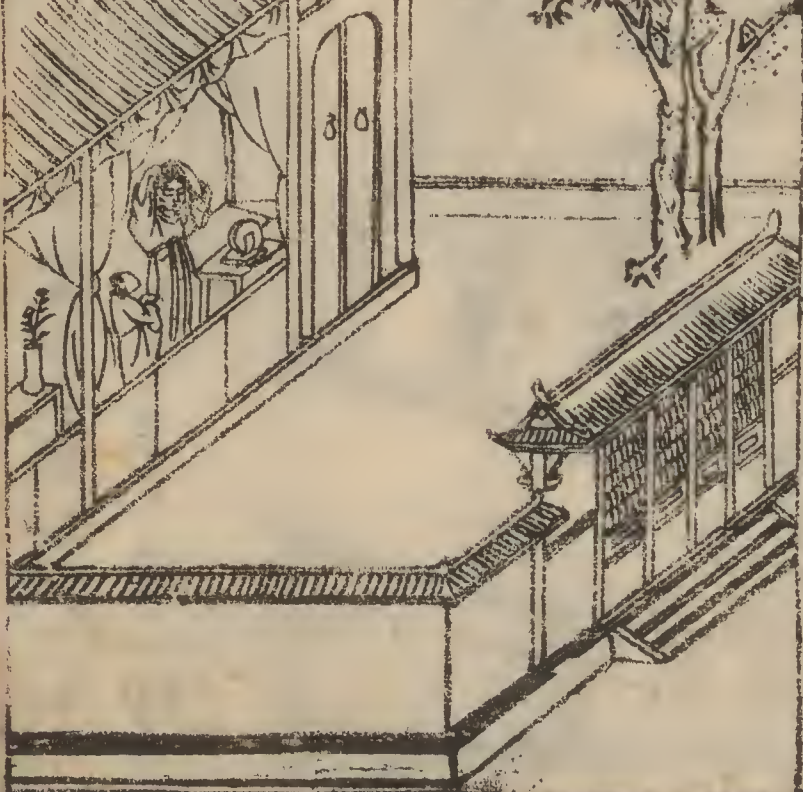


房  
 坊と

同く方の義  
 之又跡の義  
 不て風雨燥  
 濕と所也  
 宮室の制  
 中央と心室  
 房と

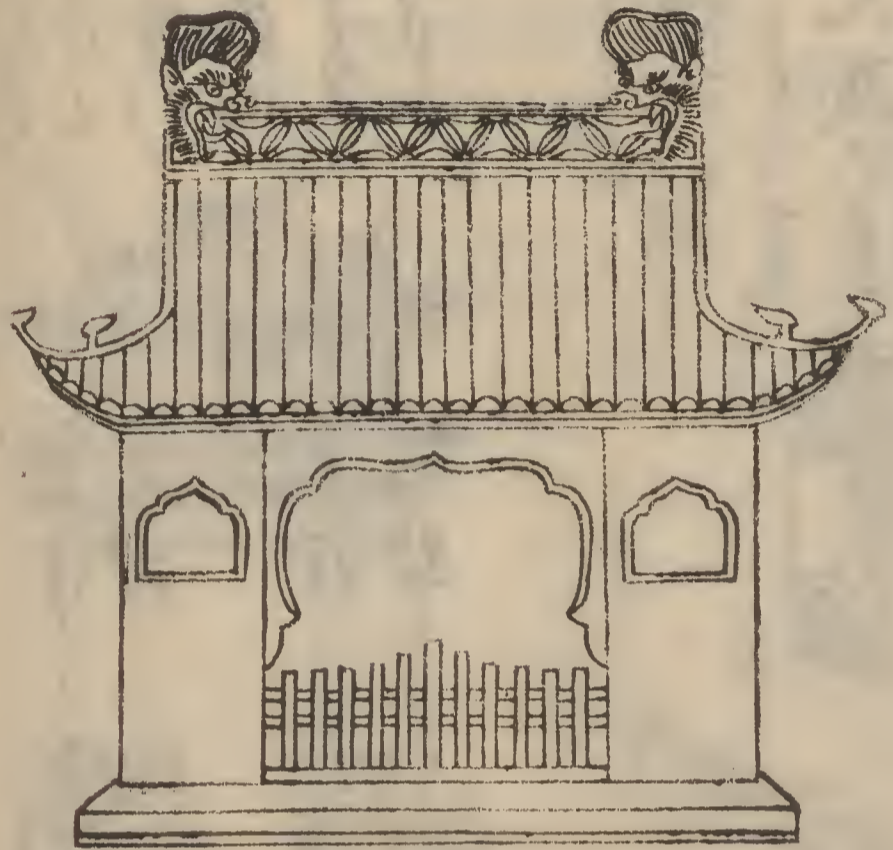


惟薄  
 惟ハ變也  
 為ハ簾也  
 故人の居  
 不とつと  
 大戴禮  
 不惟落  
 不修と  
 了是



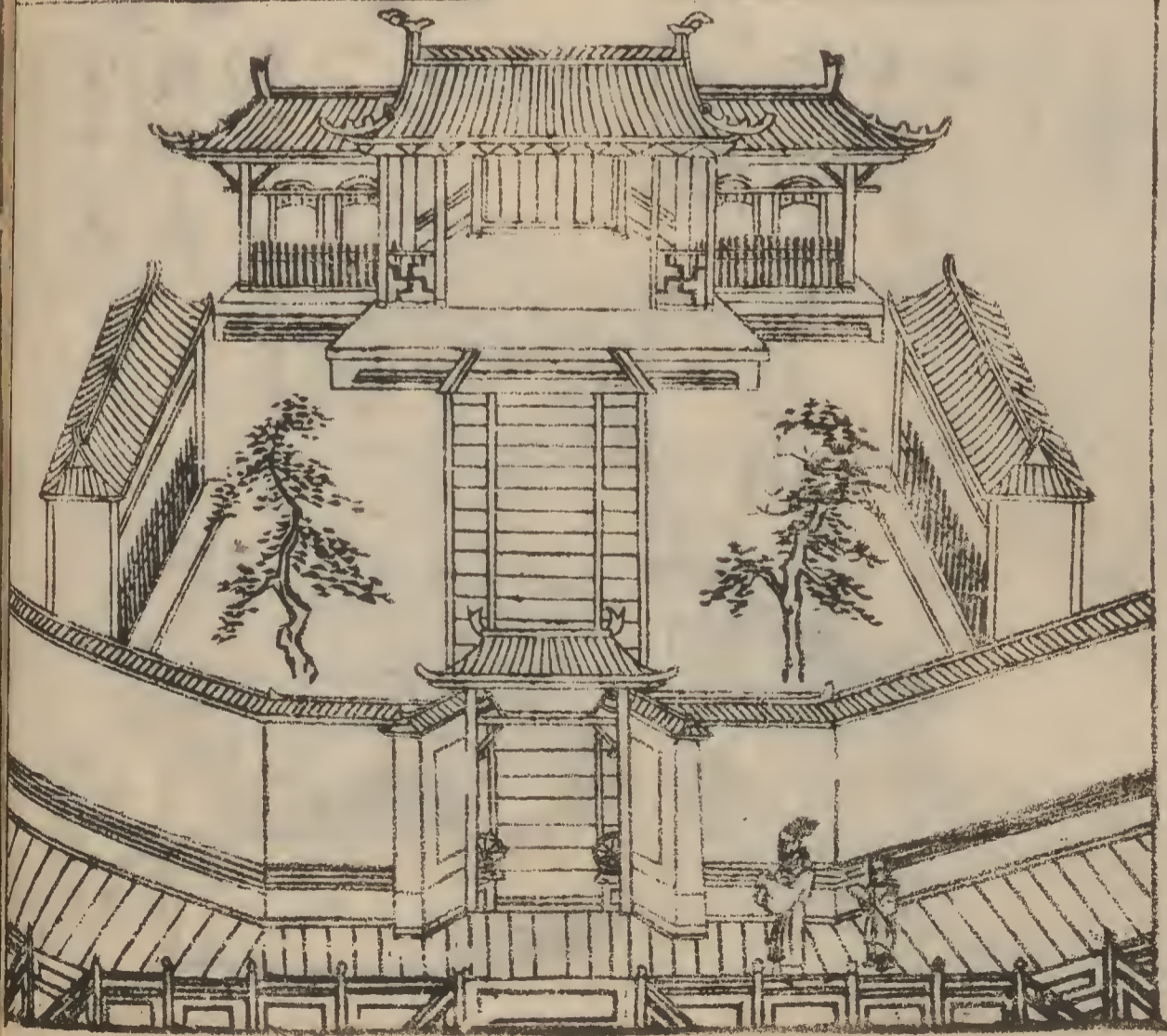
廟たけ 廟たけの字義より

人の靈れい貌がうと彷彿ふたふたと云ふ故なり  
 遊あそ慕ぶと云ふ其のり下  
 遊あそ慕ぶと云ふ其のり下



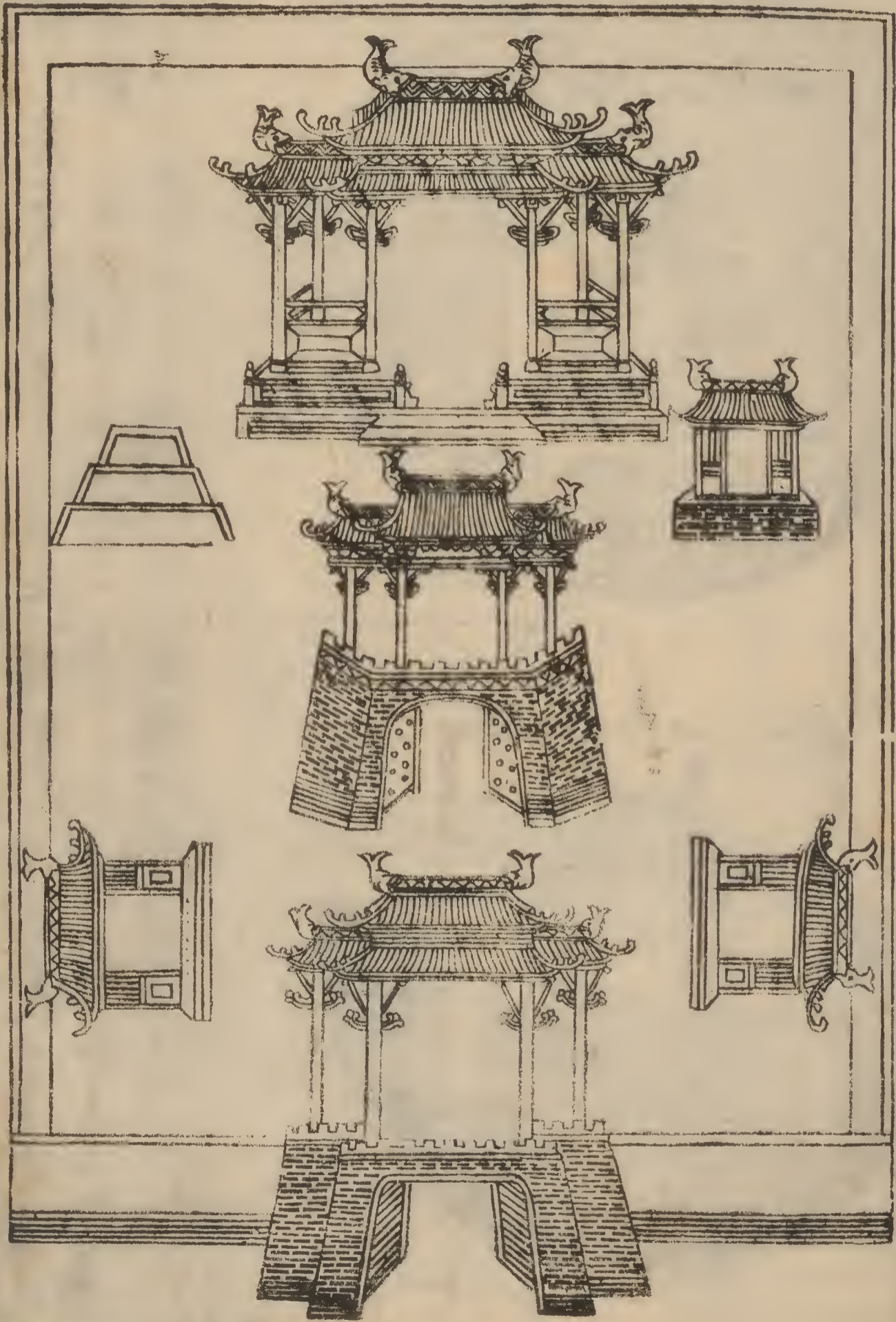
學がく 學がくの字義より

より下した庶人しよじんのり上かみ天子てんし  
 西の學がくは飛とをり

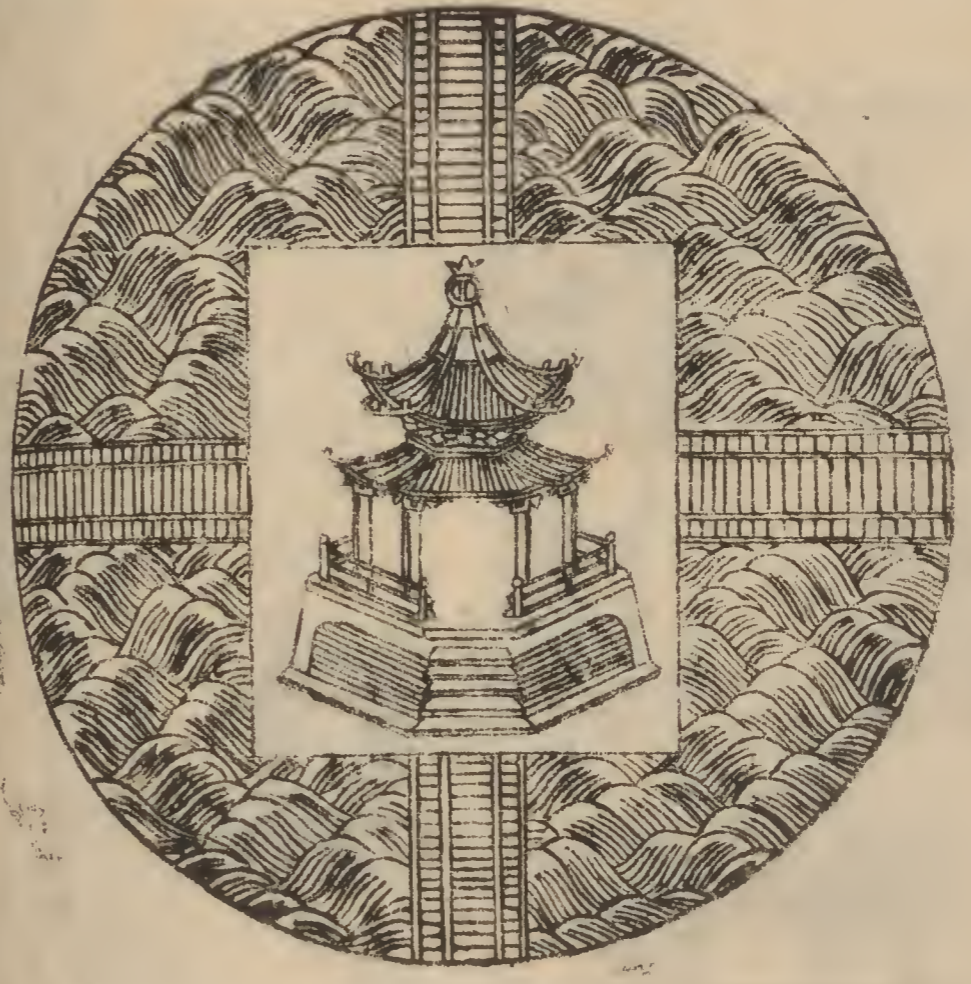


聖門せいもん 應門おうもん

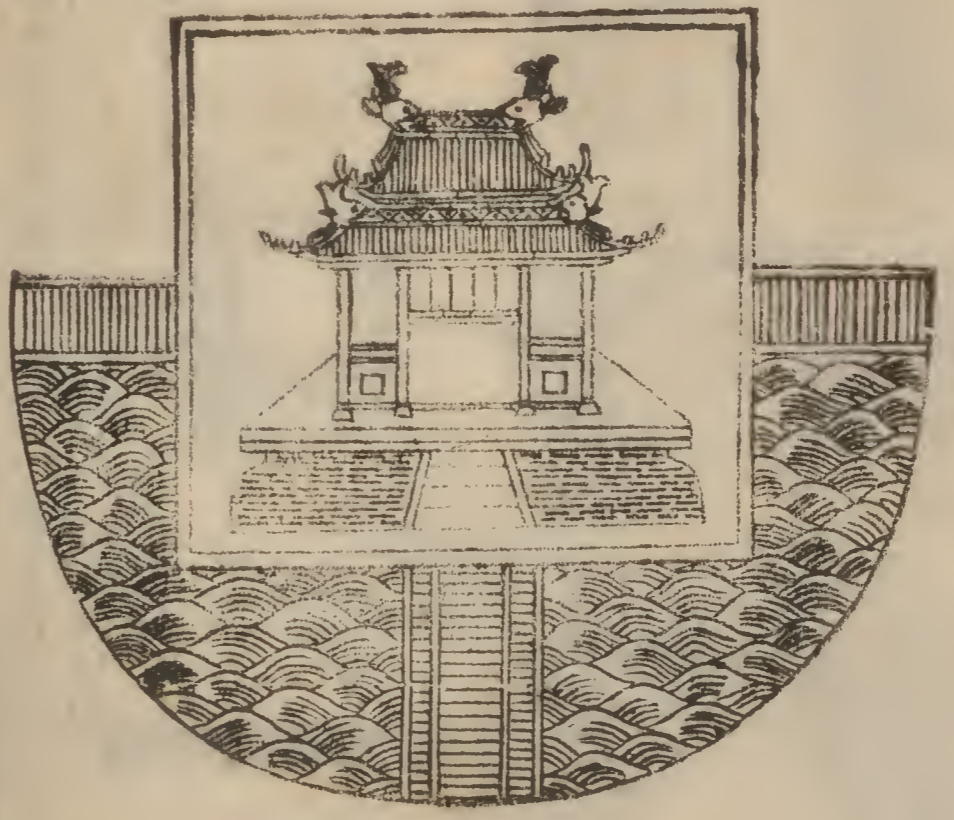
聖門せいもん 應門おうもんと建たてり古ふる公こう廟びやうのり大だい王わうと建たてり  
 門もんを聖門せいもんと云ふ正門せいもんを應門おうもんと云ふ天子てんしの門もんなり



**辟雍** 天子の射と字ひれを  
 りふの取し氷と引て四がひと  
 しくさうり観るやうに牆あさ



**泮宮** 泮の義ハ半の字と  
 通し天子乃文此がうしこれ  
 諸侯の學舎なり



**田廬**

民の居るま  
 中を野大を  
 を畜ふと時  
 たり五畝の  
 宅二畝半と  
 廬と二畝  
 半を田と  
 右制なり



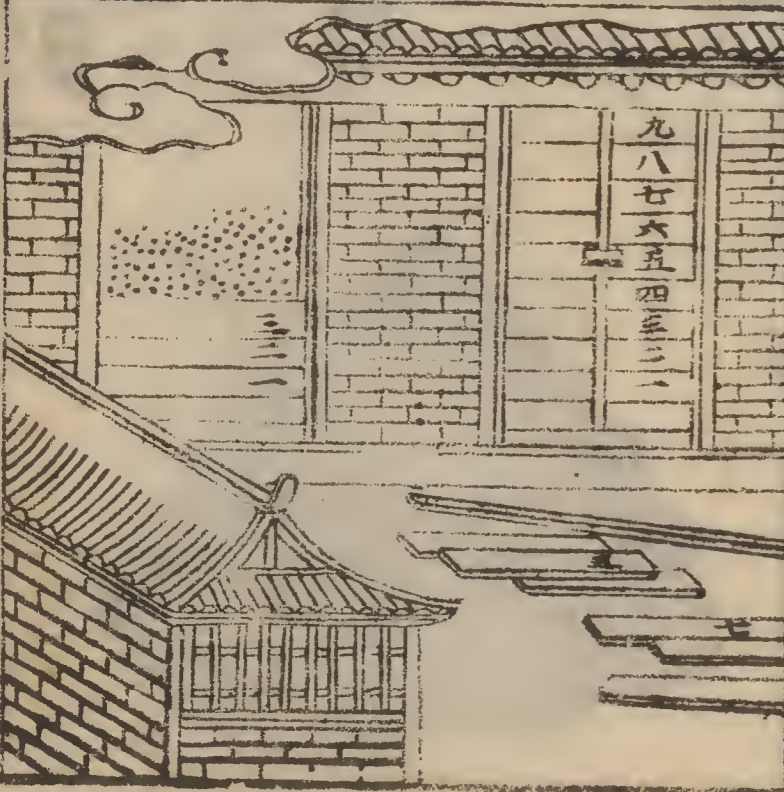
**倉**

五穀を  
 おさし  
 慶の徳を  
 を倉なり



**牛室**

牛と  
 ころら積と  
 せらる  
 室

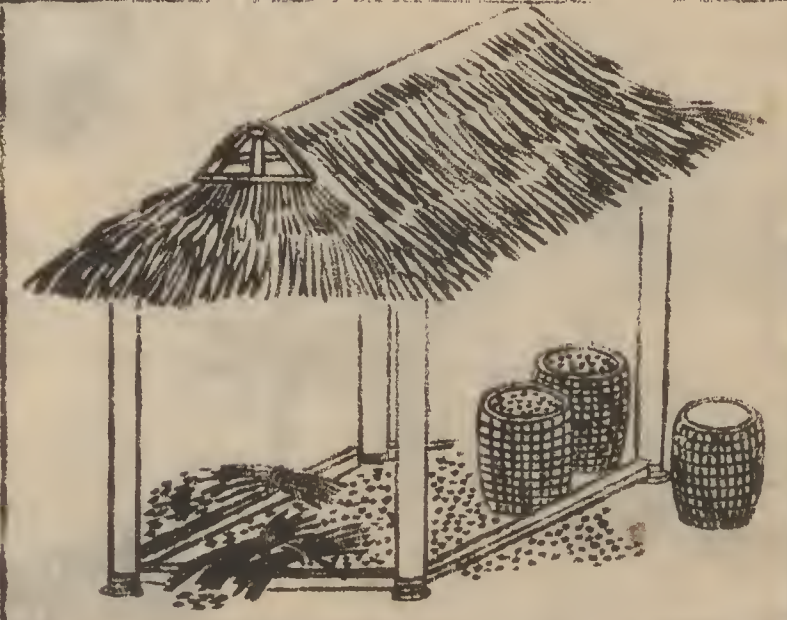


九八七六五四三二一

田園とちり  
 小屋こま  
 り人け  
 物とよ  
 ことま  
 くの  
 あり

廩 くら 壁土

かきやぬころり  
わくといふもの  
廩倉ハ五穀  
と蓄ふ所の  
おむねなりとも  
いへり



庫 くら 兵器

金形ふとを  
かきひつといふ  
書といふとき  
文庫ハ庫ハ  
湯武のとき  
五庫と染て



京 くら 旗

けりといふ又  
原の字につら  
京ハ高大乃  
義といひく  
いへり



賣 くら

小うて腹大  
ふしや外へ  
と穿てて出入  
しつといへり  
客と似たり



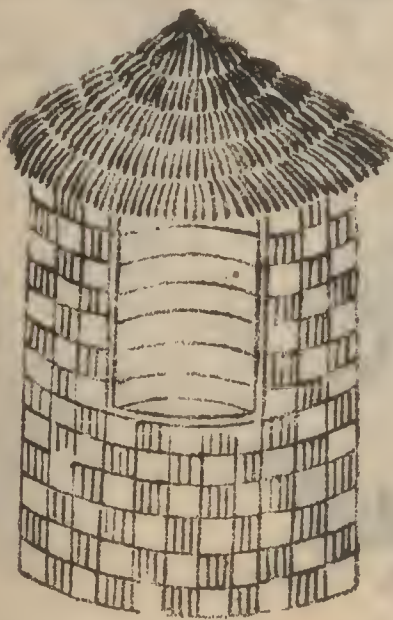
廩 くら 壁土

かきやぬふ  
くらといふ  
いほりいれ  
はつたり



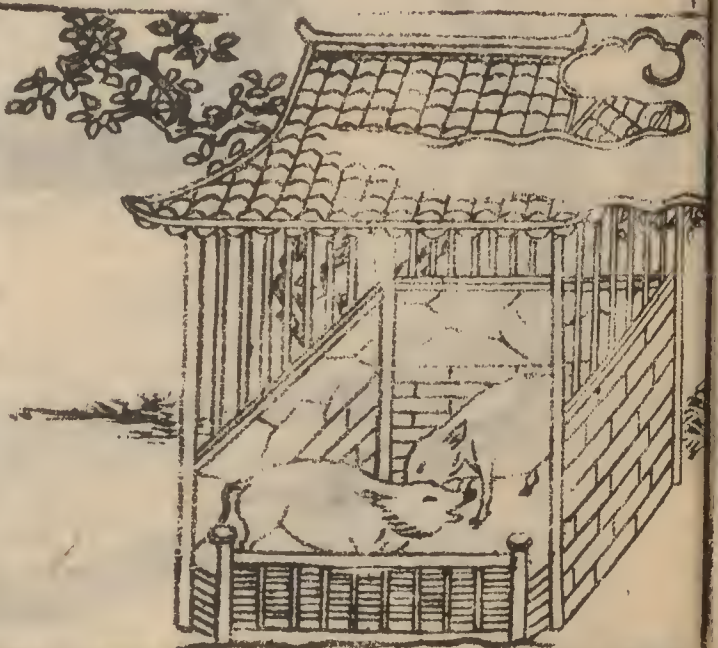
圓 くら 丸

建てたを  
いふといふ  
廩の圓を  
と圓といふ



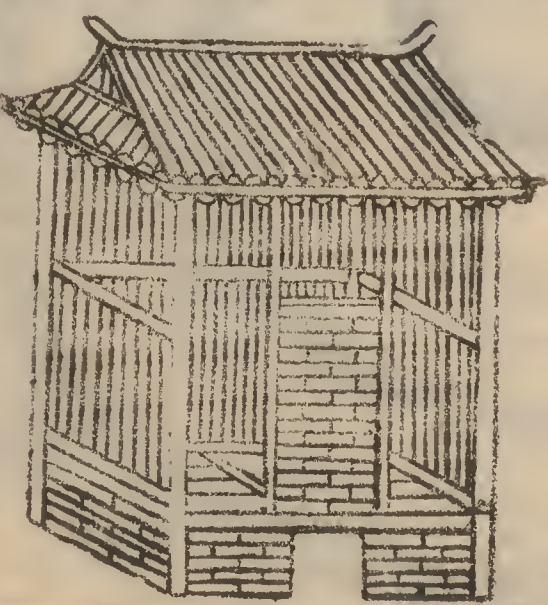
京 くら 牛

新を教と  
とありといふ



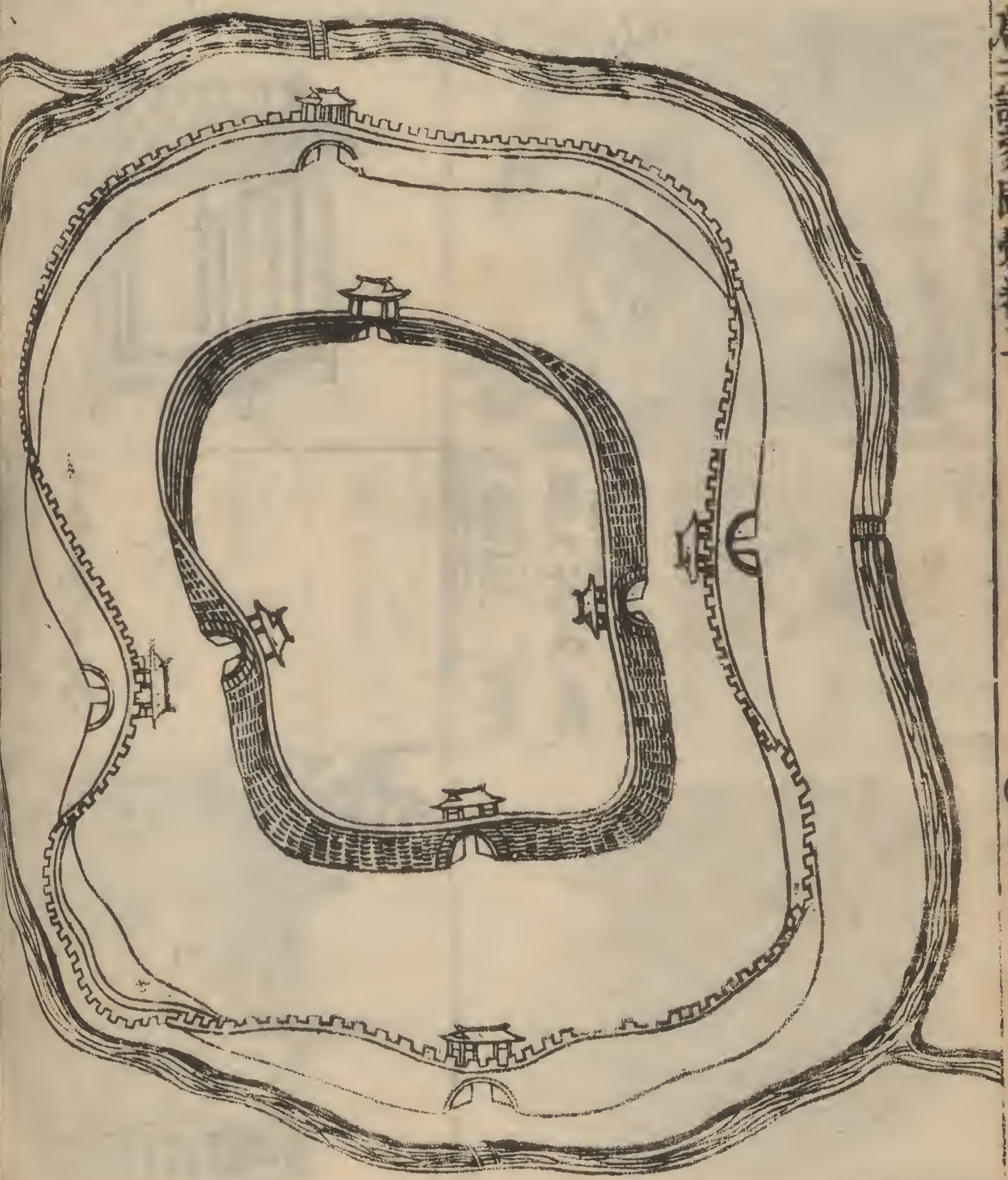
登 くら 登

司ハ林の  
登といふ  
つたり今乃  
人あやま  
この  
名といふ



郭の形

城の介と郭  
といふは  
縣といふ城と  
つらりこれり  
いりて君を  
衛つて居るま  
のれ縣と城  
と比らるる  
りといふあり  
城ハ君わり  
郭ハのまわり  
いりてあり  
とてこのこと  
○横城 破度の名  
西とくまるといふ  
とも四方あり  
とてありぬし



唐土記 卷之三

城の形

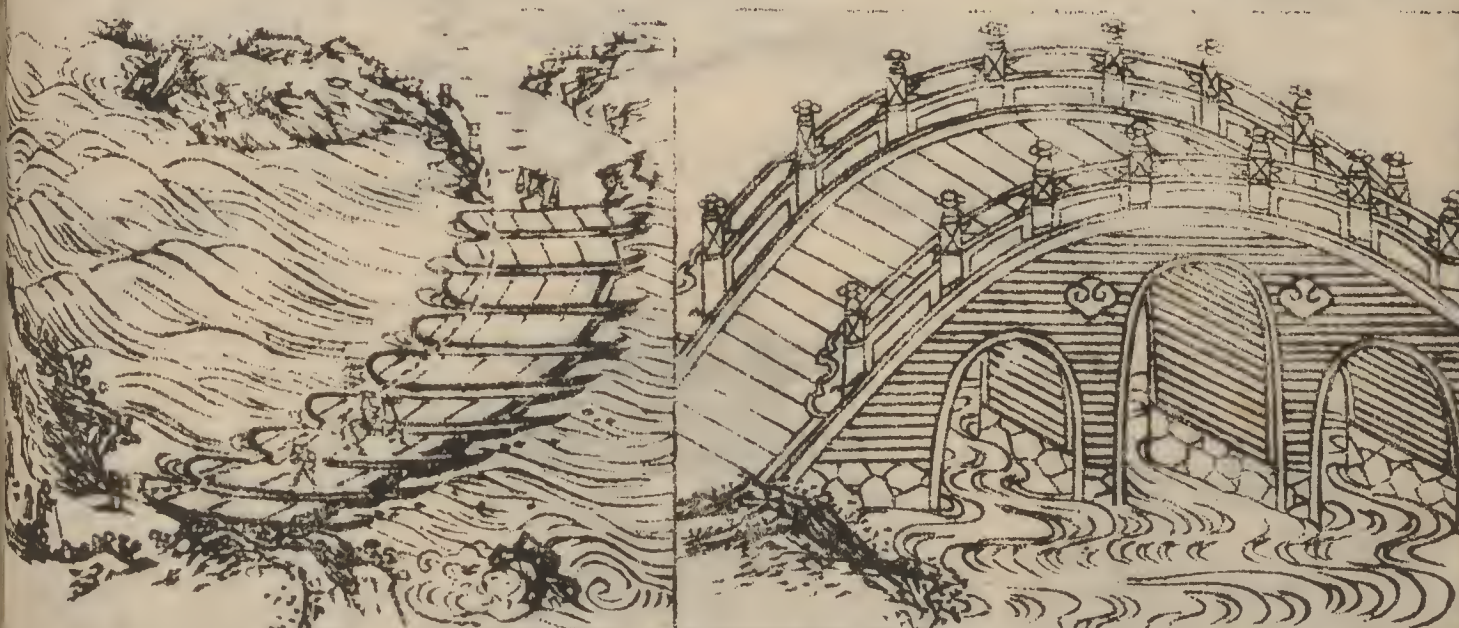
城ハ盛なり  
とてさうりに  
國形とて家  
政なり城上の  
恒と睥睨と  
やや、孔の中  
より非をと  
睥睨するを  
りといふあり  
城ハ盛なり  
とてさうりに  
國形とて家  
政なり城上の  
恒と睥睨と  
やや、孔の中  
より非をと  
睥睨するを  
りといふあり



橋 水

橋は水に架かるものなり  
 舟は水に浮くものなり  
 舟は舟と造り  
 諸侯は維舟  
 大夫は方舟  
 士は特舟  
 舟は舟と造り  
 諸侯は維舟  
 大夫は方舟  
 士は特舟  
 舟は舟と造り  
 諸侯は維舟  
 大夫は方舟  
 士は特舟

維舟 天  
 舟は舟と造り  
 諸侯は維舟  
 大夫は方舟  
 士は特舟  
 舟は舟と造り  
 諸侯は維舟  
 大夫は方舟  
 士は特舟

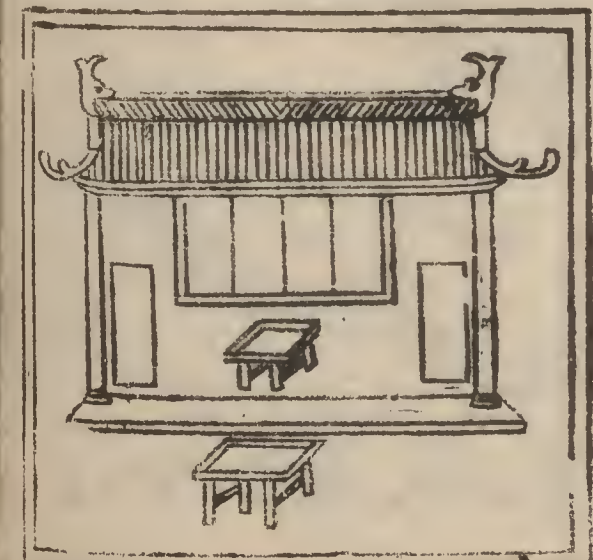


釣橋 軍

釣橋は軍に用ふる具なり其制は橋のふらふらに上り下りするの儀なり其制は橋のふらふらに上り下りするの儀なり

祠堂 先

祠堂は先祖とまつる所なり其制は堂のふらふらに上り下りするの儀なり



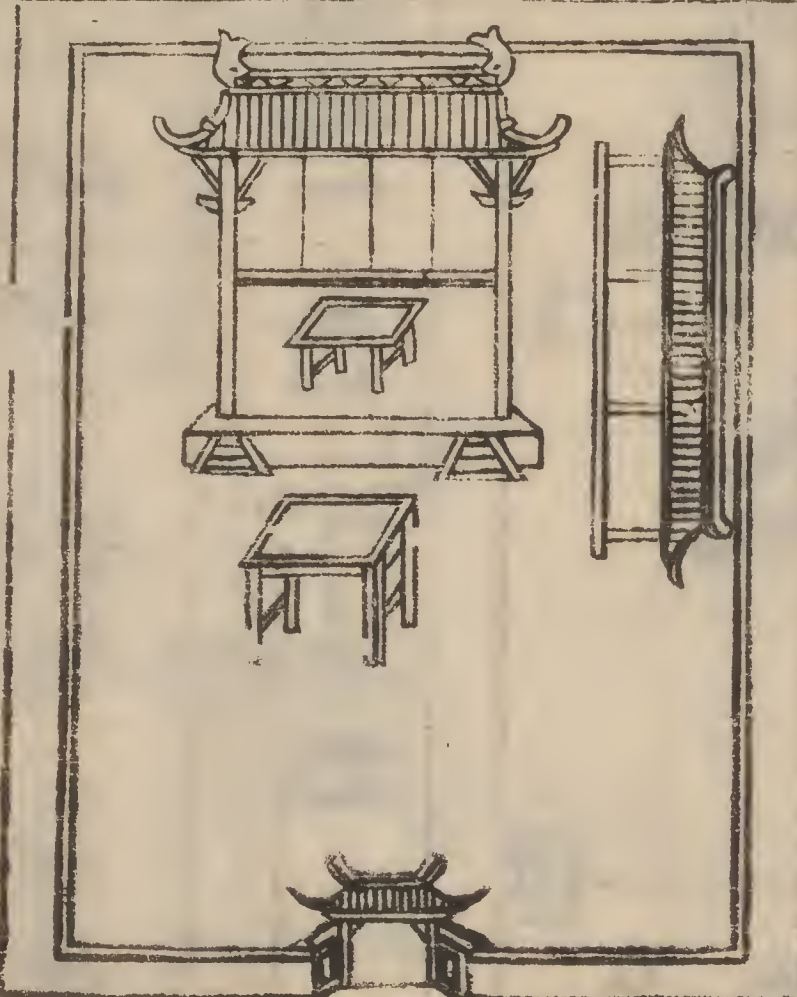
民社 餘 土池の神と社と

民社の神と社と  
 共工の子句龍  
 五帝の子句龍  
 土池の神と社と  
 共工の子句龍  
 五帝の子句龍



祠堂 先

祠堂は先祖とまつる所なり其制は堂のふらふらに上り下りするの儀なり

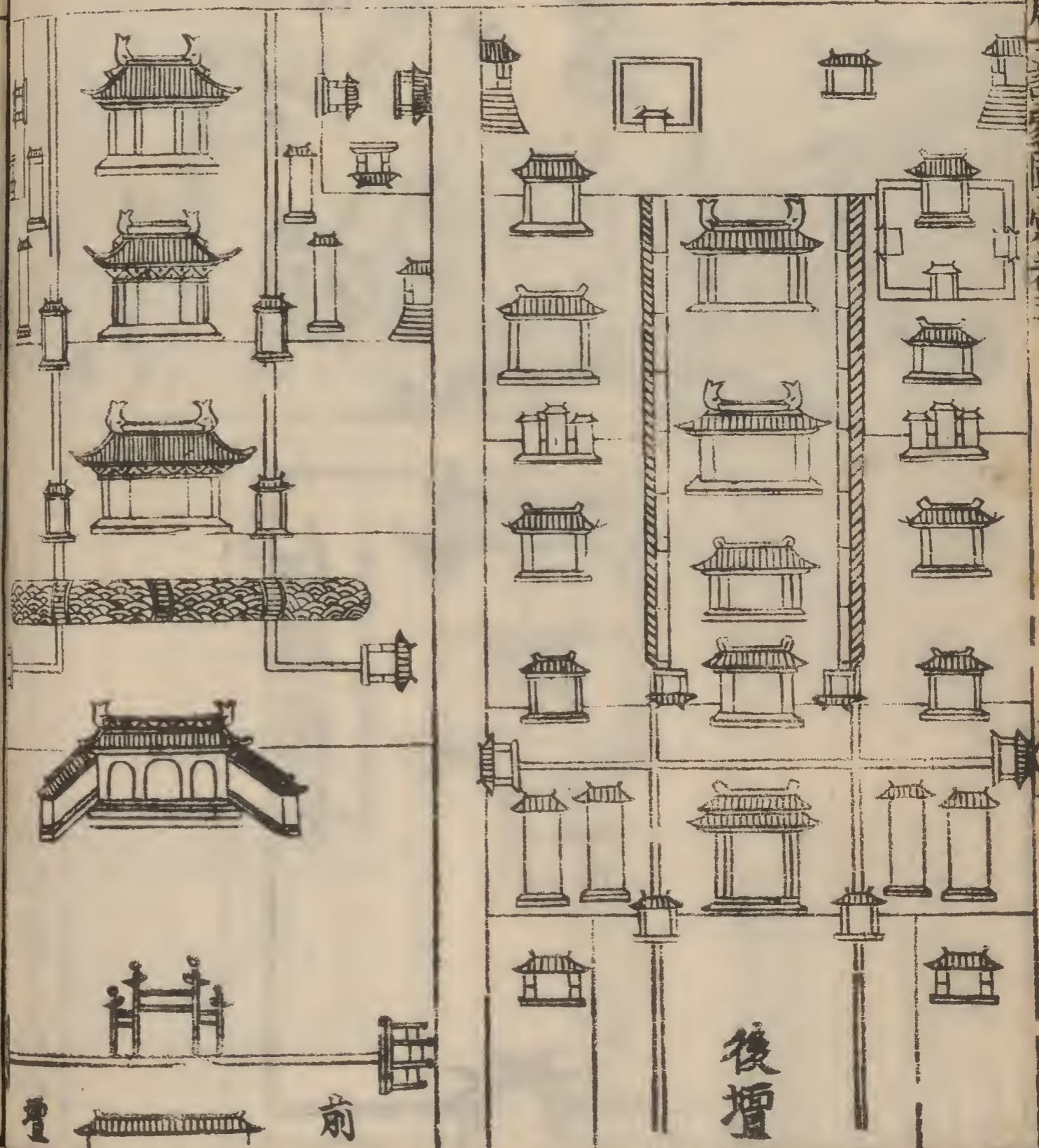
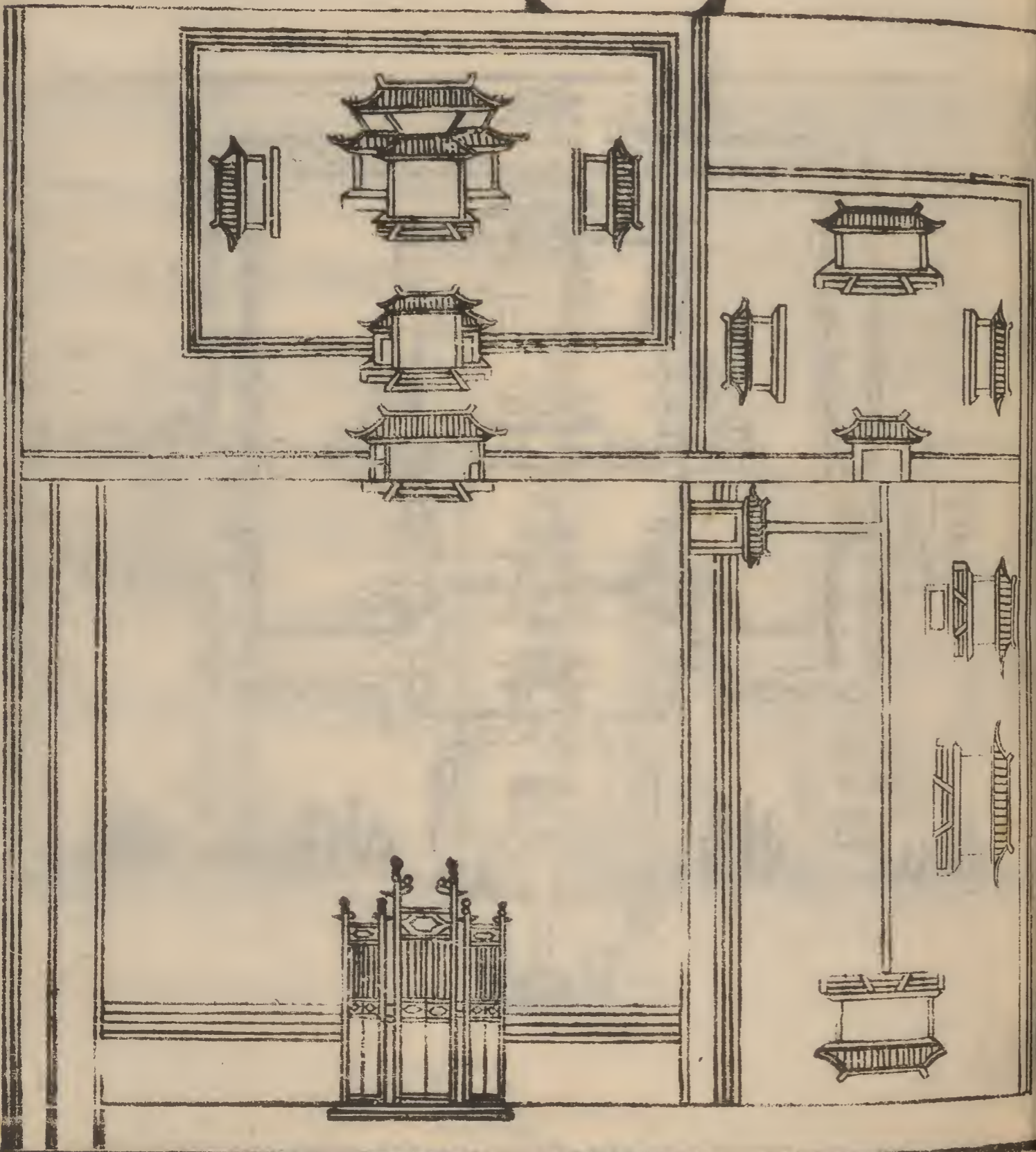


夫子宮壇前  
後圖

先聖孔子の廟  
充外仙源卿の  
西二里あること  
魯城に接する  
と二百歩關  
里の舊宅なり  
殿門の結構ハ  
をしく、祀  
跡圖闕里志  
寫にスルハ  
アスハ  
其のミト

廟

これ天子を  
祖と祀る所  
なり



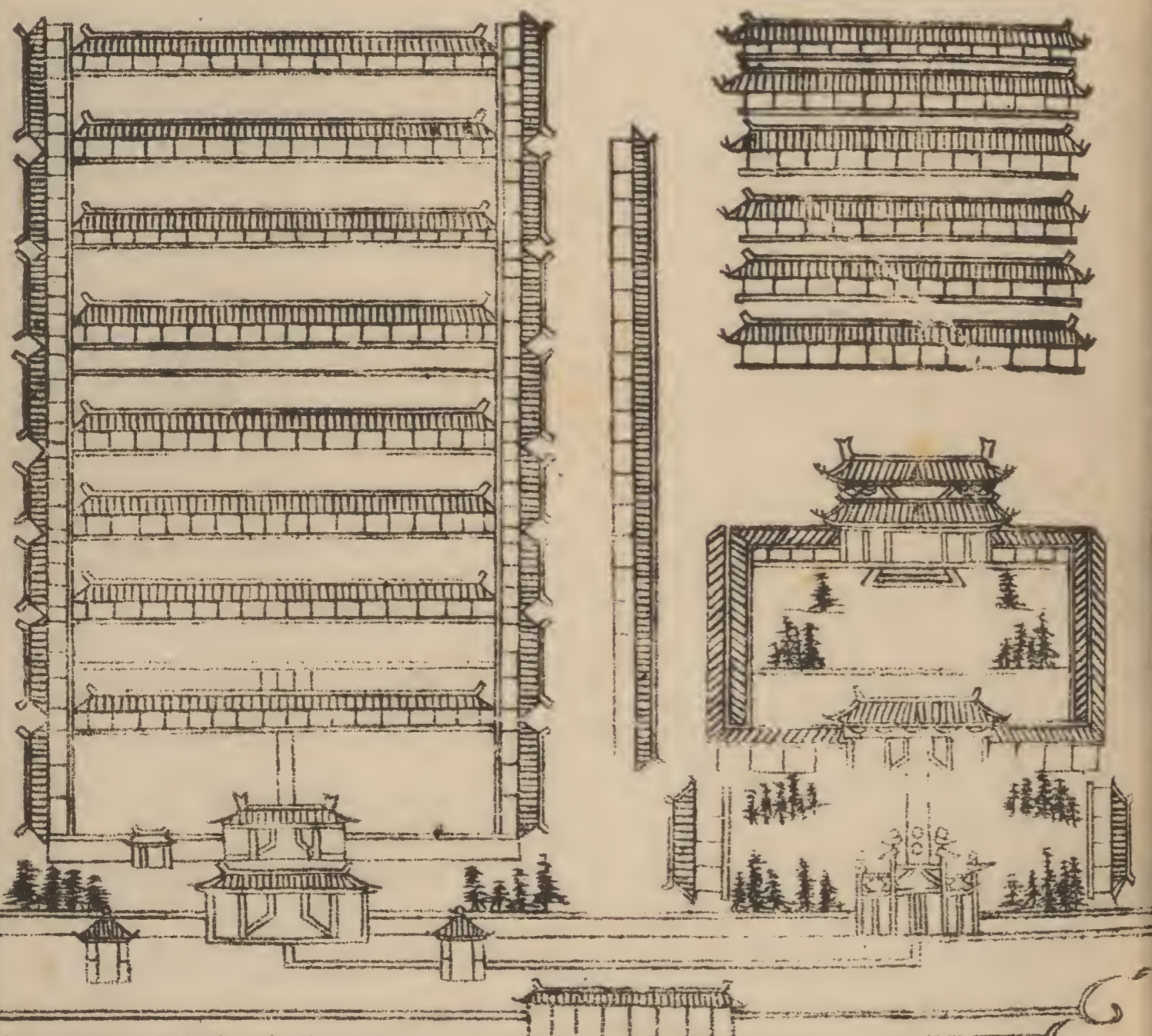
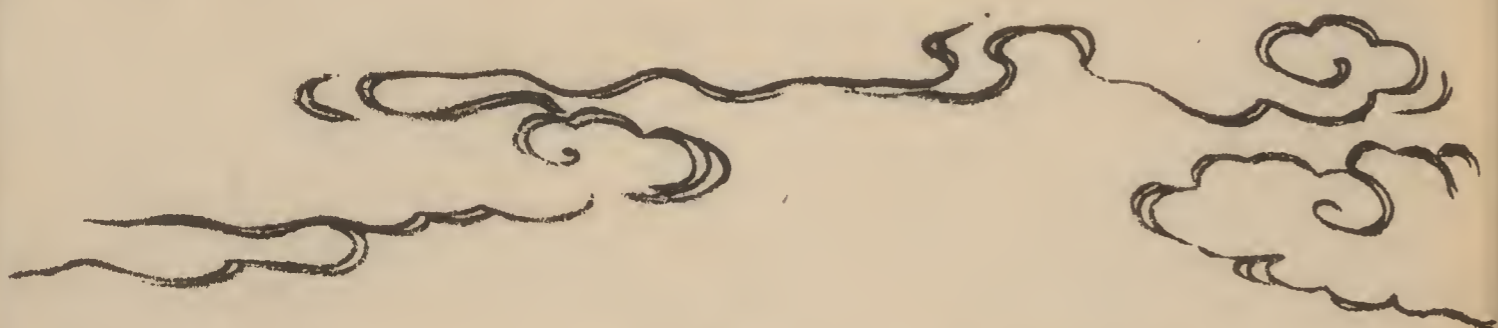
後壇

前

聖

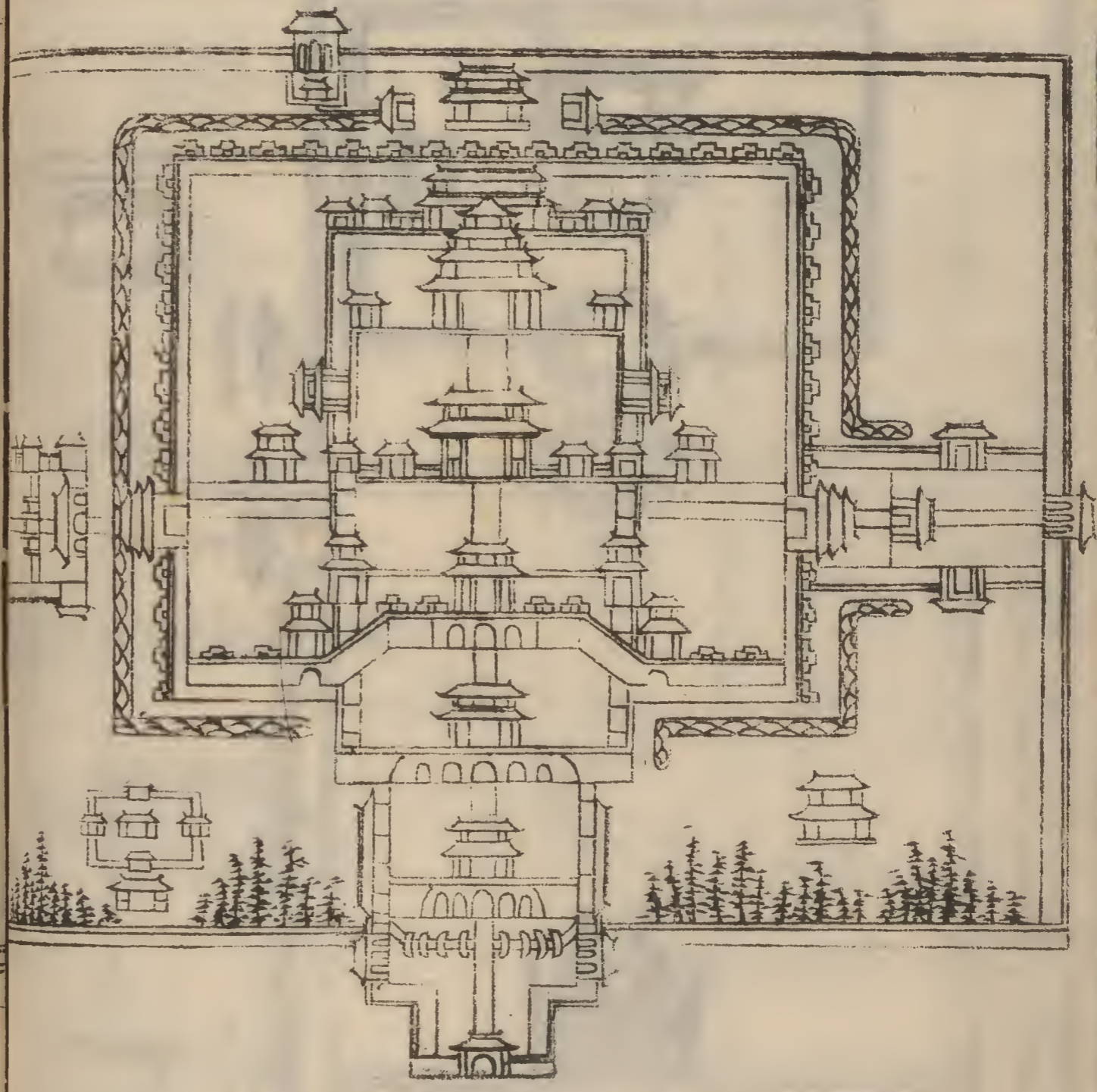
大いなる學の校の所

大いなる學の校



これ天子の都の圖今

皇城の圖



皇城の圖



177

18  
 19  
 20  
 21  
 22  
 23  
 24  
 25  
 26  
 27  
 28  
 29  
 30  
 31  
 32  
 33  
 34  
 35  
 36  
 37  
 38  
 39  
 40  
 41  
 42  
 43  
 44  
 45  
 46  
 47  
 48  
 49  
 50  
 51  
 52  
 53  
 54  
 55  
 56  
 57  
 58  
 59  
 60  
 61  
 62  
 63  
 64  
 65  
 66  
 67  
 68  
 69  
 70  
 71  
 72  
 73  
 74  
 75  
 76  
 77  
 78  
 79  
 80  
 81  
 82  
 83  
 84  
 85  
 86  
 87  
 88  
 89  
 90  
 91  
 92  
 93  
 94  
 95  
 96  
 97  
 98  
 99  
 100

101  
 102  
 103  
 104  
 105  
 106  
 107  
 108  
 109  
 110  
 111  
 112  
 113  
 114  
 115  
 116  
 117  
 118  
 119  
 120  
 121  
 122  
 123  
 124  
 125  
 126  
 127  
 128  
 129  
 130  
 131  
 132  
 133  
 134  
 135  
 136  
 137  
 138  
 139  
 140  
 141  
 142  
 143  
 144  
 145  
 146  
 147  
 148  
 149  
 150  
 151  
 152  
 153  
 154  
 155  
 156  
 157  
 158  
 159  
 160  
 161  
 162  
 163  
 164  
 165  
 166  
 167  
 168  
 169  
 170  
 171  
 172  
 173  
 174  
 175  
 176  
 177  
 178  
 179  
 180  
 181  
 182  
 183  
 184  
 185  
 186  
 187  
 188  
 189  
 190  
 191  
 192  
 193  
 194  
 195  
 196  
 197  
 198  
 199  
 200

201  
 202  
 203  
 204  
 205  
 206  
 207  
 208  
 209  
 210  
 211  
 212  
 213  
 214  
 215  
 216  
 217  
 218  
 219  
 220  
 221  
 222  
 223  
 224  
 225  
 226  
 227  
 228  
 229  
 230  
 231  
 232  
 233  
 234  
 235  
 236  
 237  
 238  
 239  
 240  
 241  
 242  
 243  
 244  
 245  
 246  
 247  
 248  
 249  
 250

390  
.T8

